

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文学に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。(高)

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが講義の時間だけでは限りがあるので、予習と復讐などして頂ければよりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小レポート(40点) + 学期末試験(もしくは学期末レポート)(60点)

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法ー心理検査、アセスメントーの理解
13	心理学的支援技法ーカウンセリング、相談支援技法ーの理解
14	心理学的支援技法ー多様な心理療法ーについての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

途中でレポートを課します。シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること

【テキスト】

テキスト『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要の都度、指示する

心理学Ⅱ

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“心理学の視点から身近な疑問をどのように読み解くか理解できるようにする。
心理学Ⅰで学んだ基礎心理学をベースに心理学の興味深い点を理解できるようにする。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	無気力はなぜ起こるか
3	思考力・問題解決能力を伸ばす方法
4	向性でわかるもの
5	人間発達と臨界期
6	発達の逸脱を理解するためには
7	記憶と“ど忘れ”
8	詐欺の心理学 振り込め詐欺など
9	虐待の原因と予防法
10	うつ状態の心理と予防策
11	人を評価し判断する視点
12	因果関係を確認する
13	相関的方法 見えないものを数字で表す
14	こころと身体の健康
15	意思決定について考える

【履修上の注意事項】

予告されたテキスト範囲について授業前に目を通し、授業後は配布されたプリント内容についてテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験 100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

未使用。心理学Ⅰを履修していた学生は、使用したテキストを持参すること。

【参考文献】

必要の都度、指示する

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜紹介する

哲学

担当教員 田畑 博敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性とことばによる論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.2-1.4節
3	主と普遍者、可能的対象と虚構的对象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.2節
5	形式的存在論VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考と表現、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的VS解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論（続）：教科書第二講義・第3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？ カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	4 カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】

講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた3つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】

コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（20%）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し（30%）、最終レポートで「総合的理解と独自の思考力」を確認する（50%）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】

倉田剛「現代存在論講義Ⅰ：ファンダメンタルズ」新曜社（2017年）¥2200＋税

【参考文献】

講義の進行に応じて、適宜、指示します。

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

- ①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能・財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2019年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など)

【履修上の注意事項】

事前にテキストを読んでまとめて授業に臨み、授業後は自分のまとめと授業内容を比較して復習をすること。

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組む姿勢 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他 3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

経済学

担当教員 中宮 光隆

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済は私たちの生活の中の大きくて重要な部分を占めているのに、とかく「難しい」といわれる。聞き慣れない用語が多いこと、常に変化していることがその原因の一端になっている。そこでこの授業では、日本と世界の経済の動きに関心を持つようになること、また新聞やテレビ等メディアによる経済に関する報道内容がより良く分かるようになって、経済の実情や課題に関する理解を深めることがねらいである。

【授業の展開計画】

授業内容は大きく分けて4つある。①経済学とはどのような学問か、現代社会の仕組みはどうなっているのか、②現代経済の実情と、それを知る方法は何か、③現代経済の課題（格差、貧困、バブル、長期の不況、国際化等）は何か、④課題を解決するにはどうしたら良いか、である。これらを順次考察する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（経済学とは何か、その由来や対象を知る）
2	社会と経済（社会の仕組みと資本主義経済の成立と発展を概観する）
3	戦後経済発展の軌跡（1940年代から80年代の日本と世界の経済状況を振り返る）
4	日本のバブル経済（1980年代後半のバブル経済とはどのようなものだったのかを知る）
5	日本経済の長期不況とその対策（1990年代の不良債権処理、2000年代の金融政策等を知る）
6	現代世界経済の焦点①（1990年代以降のアメリカ経済と住宅バブル）
7	現代世界経済の焦点②（金融危機と世界同時不況、欧州信用不安と新興国の台頭）
8	現代世界経済の焦点③（格差、貧困、バブル経済）
9	経済のグローバル化と経済連携（FTA、EPA、TPP、APEC、等々）
10	経済の実情を把握する①（経済の循環と経済統計の見方）
11	経済の実情を把握する②（貿易と国際収支、アベノミクスと財政赤字・消費税）
12	経済の実情を把握する③（グローバリゼーションと保護主義）
13	地球環境問題と現代経済（温暖化防止対策と国際協力）
14	地球環境問題と現代経済（自然エネルギー開発と経済発展）
15	経済のグローバル化と食糧問題

【履修上の注意事項】

事前に配布するプリントをよく読んで、わからない言葉は事典等で調べておくこと。

【評価方法】

試験 100%

【テキスト】

特に使用せず、講義（事前に）の際にプリントを配布する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

ボランティア論

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【教育目標】

支援される側、支援する側という区分ではなく、共に助け合い生きる社会の実現のために、地域社会や国内外で社会貢献できる人材の育成を目的とする。
ボランティアに関する基礎知識を理解し、実践力を修得する。

【授業の展開計画】

基本的に講義で基礎知識について学んだ後にグループ討論を行い、発表するという順番ですすめるため、事前に課題についてのレポートを作成し、課題に対する自分の考えを整理しておく。
最終的には、ボランティア実施計画書を策定し、実施、評価、報告を行うことを目指す。

週	授 業 の 内 容
1	ボランティアとは？(自助、互助、共助、公助)
2	ボランティア概念の歴史の変遷を学ぶ(宗教、地縁、災害、学問)
3	リスクマネジメントとボランティア保険
4	無償ボランティア、有償ボランティア、ボランティアコーディネーター
5	地域ボランティア(子ども、障がい児者、高齢者ホームレス等への支援)
6	災害ボランティアと災害ボランティアのプロとの出会い
7	ボランティア研修後のボランティア(一般病院、ホスピス、いのちの電話)
8	環境問題を考えるボランティア(水俣病問題と被災者支援)
9	NPO法人の設立と活動
10	国際活動(JICA海外協力隊、NGO活動)
11	支える側、支えられる側、地域共生社会の実現に向けた取り組み
12	ボランティア活動計画の立案(各専門性を活かした活動、個々のストレングスを活かした活動)
13	ボランティア活動の現状と課題
14	ボランティア活動の実施報告
15	ボランティア活動の振り返り

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図式化したり表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合は、講師に質問する。

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(10%)、2. ボランティア計画書作成・実施・報告書作成・報告(70%)、3. レポートによる評価(10%)、4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(5回以上の欠席は定期試験が受験不可)：学則により、欠席回数が講義回数の三分之一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

大熊由紀子著『恋するようにボランティアを[優しき挑戦者たち]』ぶどう社 2008年
その他、適宜、資料を配布する。

【参考文献】

三本政之・朝倉美江(編著)『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ 2007年
田尾正雄・川野祐二(編著)『ボランティア・NPOの組織論—非営利の経営を考える—』学陽書房 2010年

教育学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017年）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解することができる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

第1回目の講義にて出席に関する重要な説明をします。テキストで事前学習して下さい。講義時間内に心理検査の実施をします。毎回振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習・グループワークの中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習・グループワークでは、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

運動学は人の運動行動を知るための学問であり、運動の科学的な解析、研究を種々の医学的分野と理工学的分野の知識、手技、手段を利用して理解し、人間の運動機能を十分に理解できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10%、課題レポート20%、体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

倫理学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成31年度は閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をとともに探求できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲を求めます。予習と復習を兼ねて、私的教科書の熟読と質問を重ねてください。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示

比較文化論

担当教員 金 蘭九、安藤 学、高 継芬、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米及びアジア諸国の文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近（金）
3	医療と福祉・日本と韓国（金）
4	障害者福祉の基本・国際比較（金）
5	メディアを通じた異文化理解（未定）
6	映画と社会、文化（未定）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間1（未定）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間2（未定）
9	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間3（未定）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	中国の孫子兵法と日本の太平洋戦争（安藤・高）

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート80%、発表20%で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

英語 I

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年制の大卒者として最低限求められる英語力の養成を目的とし、英語による情報の受信と発信が可となることを目指す。身近で初歩的な科学の話題を扱ったテキストを用い、英語の読解、語彙力、ライティング力を包括した学習を行い、一部に聞き取り練習も取り入れてコミュニケーション能力の基礎を向上させる。更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への関心と知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. 英語学習の意義、英語の特徴等の説明.
2	Unit 2. Why Are Giant Pandas Black and White? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
3	Unit 2に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
4	Unit 4. Why Are Eggs Oval? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
5	Unit 4に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
6	Unit 7. Mechanism of Sugar Addiction 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
7	Unit 7に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
8	Unit 11. The Unkown Effects of Tatami 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
9	unit 11に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
10	Unit 14. Twinkle, Twinkle Little Star 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
11	Unit 14に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
12	Unit 20. The Mystery of 36 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
13	Unit 20に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
14	ハンドアウト (テキストとは異なる幾分高度な英語原文) 演習
15	第14回に続けて、英文演習. 及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】

- ・英文の読解のみにならないように、教員作成の補助教材を一定量使用します。
- ・辞書は必携です。
- ・展開計画は一部変更することがあります。

<テキストは口腔保健・鍼灸スポーツクラスと同一であるが、授業で扱うユニット(章)は同一ではない>

【評価方法】

試験 70%. 発表 20%. 平常点(受講の積極性等) 10%.

【テキスト】

石井隆之(他)著
"Science Explorer (身近な科学の世界)" (株)成美堂

【参考文献】

随時、補充教材(ハンドアウト等)配布

英語Ⅱ

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ねらい： 2学期の英語Ⅱに於いては、主として情報発信能力の向上を目指す。教員作成のプリント教材を用いて、可能な限りの基本的な英語による、福祉や医療に関する初歩的なライティングの力を持つようにする。併せて英語圏の国々の社会や文化への関心を深め、知識を増やして、国際感覚を身につける。

到達目標： 基礎的な英語による作文力を身につけ、福祉や医療に関わる一定の情報発信ができる。
高水準の語学力を必要とせずとも、それなりの英文が読める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、英語学習の意義説明等
2	ごく簡単な英語を利用した、自己紹介等のライティング演習
3	ライティングのための基本5文型の説明等
4	3を応用した基本的なライティング演習
5	福祉や医療に関わる初歩的なライティング演習
6	5よりも幾分専門性の高い福祉や医療に関わる英語表現を演習
7	リーディング： 一流作家が平易な英文で書いた短編小説を原文で読む
8	リーディング： 7に同じ。併せて、この短編小説のモチーフについて考える
9	リーディング： 福祉・医療に関わる、やや程度の高い英文を原文で読む
10	リーディング： 9に同じ。高度な英語力を必要とせずに、英語の原文を読む練習。
11	福祉、医療、科学一般に関わる、重要で使用頻度の高い動詞（15個前後）について解説、演習
12	11に関わる基本的なライティング演習
13	11、12に続き、幾分高度なライティング演習
14	13に続き、福祉や医療に関わる幾分高度なライティング演習
15	14までの講義の補足と総括

【履修上の注意事項】

- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて一部変更することがあります。（その際は適宜連絡します）
- ・総て、講義は予習が行われていることを前提として行います。
- ・辞書は全授業において必携です。

<本シラバスの内容は前年度と変わらないが、講義中に取り扱う設問は同一ではない。>

【評価方法】

試験 70%、発表 20%、その他（受講の積極性等）10%。

【テキスト】

教員自作プリント <プリント中の設問は前年度のものとは同一ではない。>

【参考文献】

随時配布

英会話 I

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

Students will improve their English speaking and listening skills through role play study in groups. Students will maintain a personal dictionary of the vocabulary learned each week.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1 Introduction of study options, and pronunciation practice.
2	Print 1 - Sections 1 & 2, role play and language study
3	Print 1 - Sections 3 & 4, role play and language study
4	Print 1 - Sections 5 & 6, role play and language study
5	Print 1 - Sections 7 & 8, role play and language study
6	Print 1 - Sections 9 & 10, role play and language study
7	Review of print 1. Preparation for speaking test
8	Speaking test No. 1
9	Print 2 - Sections 1 & 2, role play and language study
10	Print 2 - Sections 3 & 4, role play and language study
11	Print 2 - Sections 5 & 6, role play and language study
12	Print 2 - Sections 7 & 8 role play and language study
13	Print 2 - Sections 9 & 10, role play and language study
14	Review print 2. Preparation for speaking test 2.
15	Speaking test 2

【履修上の注意事項】

- 1) Homework will sometimes be assigned at the end of class. Make sure to get assignments directly from me or a fellow classmate if you are absent from any classes.
- 2) Quizzes may be given occasionally at the beginning of class to make sure that students understand the course material presented.

【評価方法】

Class participation (15%), mid-term test and final speaking test (85%).

【テキスト】

Any good Japanese-English dictionary app for your smartphone and/or an electronic dictionary.

【参考文献】

スペイン語会話

担当教員

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成31年度は閉講

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害者言語

担当教員 福田 九

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

最近、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べることができるような力を育成する。

【授業の展開計画】

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（この講義を受講にあたって）
2	講義「手話の基礎知識」
3	実技「手話で自己紹介をする・指文字（大曾根式手指記号）」
4	実技「一日の生活・通勤・通学」編
5	個別テスト（「自己紹介」）
6	実技「趣味・スポーツ」編
7	実技「地名・旅行・観光地」編
8	実技「仕事・職業」編
9	実技「病院・病気」編
10	個別テスト（「手話でスピーチ」）
11	講義「手話を日本語文に翻訳する」
12	実技「手話を日本語文に翻訳する」(1)
13	実技「手話を日本語文に翻訳する」(2)
14	実技「手話を日本語文に翻訳する」(3)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 事前・事後学習については、講義毎に指示する（講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい）。
- 2) 授業では、パワーポイントと手話で話す（手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい）。

【評価方法】

試験（筆記・実技）100%

【テキスト】

全日本ろうあ連盟著(2007年)『新手話ハンドブック』,三省堂

【参考文献】

『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一(日本手話研究所長)著他

中国語会話 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

“本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、会話能力の基礎を身につけることにある。”

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	“喜歡”+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
レポート 20%
試験 60%

【テキスト】

教科書： 『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
辞典： 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項 本講義を受講する学生は、必ず中国語会話Ⅰを履修しておくこと。

備考

【授業のねらい】

本講義は、受講者が前期の中国語会話Ⅰで修得基礎知識をもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう① 上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③ 外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④ 上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤ ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥ どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦ 上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧ またあいまよう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海 初級中国語』朝日出版社最新版
 辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、簡単な会話は韓国への観光・旅行などの場合、応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「ハングル」文字に関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き順について
3. 韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
4. 「パッチム」とパッチムの連音化
5. 基本的な挨拶に関連する会話
6. 自己紹介などの簡単な会話
7. 小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
8. 韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
9. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 1
10. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 2
11. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 3
12. 日本と韓国との文化の差について（韓国人講師の特別講演）
13. 日常生活での基本的な会話 1
14. 日常生活での基本的な会話 2
15. 日常生活での基本的な会話 3

【履修上の注意事項】

授業後に繰り返し復習する。

【評価方法】

- ①授業参加への態度及び発表 50点
- ②授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

やさしい韓国語（初級）梁礼先・権点淑・曹恩美 朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項 本講義を受講する学生は、必ず韓国語会話Ⅰを履修しておくこと。

備考

【授業のねらい】

韓国語会話Ⅰに続けて韓国の文化・歴史への理解・関心を深めながら、簡単な会話は日常生活の場面で応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解は？（ディスカッション）
3. 韓国語会話Ⅰの復習－挨拶・自己紹介など
4. 具体的な場面を想定した日常会話（1）
5. 具体的な場面を想定した日常会話（2）
6. 具体的な場面を想定した日常会話（3）
7. 日本・韓国との大学生交流の重要性とその役割について（特別講演；韓国人講師）
8. 日常場面で応用できる会話（1）
9. 日常場面で応用できる会話（2）
10. 日常場面で応用できる会話（3）
11. 韓国の映画（ドラマ）鑑賞
12. 韓国語での日記・作文の練習（1）
13. 韓国語での日記・作文の練習（2）
14. 韓国の医療・福祉の動向について
15. 韓国への留学に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学の先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】

- 韓国語会話Ⅰを履修していない方も可能です。
- 韓国語会話Ⅰを履修した方は、その内容を復習する。

【評価方法】

1. 授業への出席や授業参加への意欲・態度 50点
2. 授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

ドイツ語 I

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定
の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがねらいとする。
講義を
通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	名詞の性と冠詞
3	動詞の現在形 (1)
4	冠詞と名詞の格変化
5	動詞の現在形 (2)
6	接続詞
7	定冠詞類 (dieser型) ・疑問代名詞
8	人称代名詞 ・不定冠詞類 (mein型)
9	名詞の複数形
10	分離動詞
11	3基本形 ・過去形と未来形
12	再帰 ・非人称
13	前置詞
14	完了形
15	まとめ

【履修上の注意事項】

独和辞典の購入と教室必携は、早い時期にすること。ドイツ語学習は、辞書の引き方それ自体が学習内容であり、予習と復習の要である。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらを総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布する。テキストはとくに指定しない。

【参考文献】

橋本政義『あなただけのドイツ語家庭教師』国際語学社
ヴァイツゼッカー『過去の克服・二つの戦後』山本務訳、日本放送出版協会

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項 本講義を受講する学生は、必ずドイツ語Ⅰを履修しておくこと。

備考

【授業のねらい】

ドイツの文化を、ドイツ語学習を通じて学ぶことを本講義の目的とする。ドイツ語それ自体をも対象としながら、特定
の言語構造のなかで思考をおこなうとき、言語が思考に影響をおよぼすという事実を知ることがねらいとする。
講義を通じて、学修者はドイツ語の言語としての構造的特性を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	形容詞の格変化
2	話法の助動詞
3	形容詞の比較
4	関係代名詞
5	受動・分詞
6	zu不定詞(句)・命令法
7	接続法(1) 要求話法
8	接続法(2) 非現実話法
9	接続法(3) 関節話法
10	指示代名詞
11	数詞
12	まとめ
13	ドイツ語の童話を読む
14	ドイツ語の歌を聞く
15	ドイツ語の映画を見る

【履修上の注意事項】

予習と復習に自力で独和辞典を引きまくるという態勢を築いてほしい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣をもってほしい。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテストを実施し、それらを総合的に評価して最終評価とする。

【テキスト】

プリントを配布する。テキストはとくに指定しない。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』 ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、NHKブックス

中国事情 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

中国語の文章を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解ができる。
古代の文化は論語中心に学ぶことができる。
現代の中国事情について中国の人口、地理、民族、飲食習慣文化などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション
2	中国の概況
3	中国の電子決済事情
4	中国の習慣
5	中国の礼儀作法
6	論語①
7	論語②
8	中間復習まとめ
9	中国の観光
10	中国の飲食習慣
11	中国の節日
12	中国の交際礼儀
13	中国の現代の大学生
14	現代中国の抱える問題
15	総括まとめ

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習することと毎回授業後復習すること。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。受講者が伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いを理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション（張・高）
2	中国の消費観念（高）
3	中国の就職事情（高）
4	中国の婚姻（高）
5	中国の教育事情（高）
6	中国の健康観念（高）
7	中国の定年後の娯楽（高）
8	今までの振り返り（高）
9	中国の医療事情（張）
10	中国の観光事情（張）
11	中国の伝統休日（張）
12	中国の世界遺産（張）
13	中国の伝統習慣（張）
14	中国の伝統礼節（張）
15	総括まとめ（張・高）

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくるものと事後復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート40%
小テスト20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	タイの文化(その歴史と現在)(安藤)
2	日韓文化の遠近(金)
3	韓国の保健・医療・福祉の歩み(金)
4	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
5	「飛鳥」という地名の意味、由来(李)
6	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「D o r i」について(李)
7	台湾の文化について(高)
8	日中の歴史について(高)
9	日中旅遊観光の文化について(高)
10	日中教育文化について(高)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	日中文化における共通性と異質性 衣食住の比較(高)
14	日本の文化について(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくと毎回授業内容を復習していただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時に配布

【参考文献】

適宜に紹介する

基礎生物科学

担当教員 檜枝 洋記、水崎 幸一

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リハビリテーション学科の開講科目の中には、理学療法士として働く上で必要な共通の教養と専門基礎知識を身に付けるために、解剖生理学、薬理学、栄養学などが設けられている。これらの生命科学と関わりのある科目内容を理解するためには、生物有機化学や分子生物学的な基礎知識が必須である。この授業では、生物(特にヒト)の体内での合成や分解(代謝)によって創り出される物質や栄養素、遺伝子(核酸)など、いろいろな有機化合物の構造・性質・働きについての基礎知識を習得し、専門・専門基礎科目の内容のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

授業の前半(第1週から8週まで)は、有機化合物を構成する元素やその結合様式、分子の形と混成軌道、官能基の構造と性質など、生体物質を理解する上で基礎となる内容を中心に進める。特に、生体内での代謝で創り出される有機化合物(生化学や栄養学などで必ず出てくるもの)についてわかりやすく解説し、構造式を書ける程度まで学習する。後半は、生物の単位である細胞を構成する主な有機化合物について考え、それらの構造や性質と役割、さらには遺伝子の構造や発現機構についても言及する。

週	授 業 の 内 容
1	生物を構成する元素の特徴 - CHONSPから成る分子の世界 (水崎)
2	有機化合物の書き方とアルカン - 分子の形を見る (sp ³ 混成軌道) (水崎)
3	アルケンとアルキン - 分子の形を見る (sp ² 混成軌道とsp混成軌道) (水崎)
4	ベンゼンと芳香族 - 亀の甲の形を考える (水崎)
5	有機化合物の官能基と分類 - 分子の性質を決める原子団 (水崎)
6	有機化合物の官能基の性質と反応 - 酸・塩基、酸化・還元反応や脱水反応の産物 (水崎)
7	有機化合物の構造異性と光学異性 - この双子兄弟は一卵性?二卵性? (水崎)
8	到達度チェックの中間試験と授業の中間まとめ (水崎)
9	生体を構成する有機化合物 - 糖質と脂質の有機化学的見かたと役割 (水崎)
10	アミノ酸の化学 - タンパク質を作る20種類の材料と性質 (水崎)
11	タンパク質の構造と機能 - タンパク質の性質と酵素の働き (水崎)
12	核酸の化学 - 核酸を作る5種類の材料と組み合わせの化学 (檜枝)
13	遺伝子と核酸 - DNA上の遺伝子の構造と働き (檜枝)
14	遺伝子発現1 - mRNAの発現と調節 (檜枝)
15	遺伝子発現2 - mRNAの発現と調節 (檜枝)

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で有機化学を履修しなかった、苦手としていた、好きで履修したがもう一度学び直したい、生体を構成する有機化合物の構造と機能などにも少し興味がある学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容をちょっと確認し、また、受講したその日の内に短時間でも復習し、学んだことを記憶に残す努力をする。「わかること」「知ること」を「楽しむ」姿勢で受講するとよい。

【評価方法】

本試験60点、中間試験20点、学習態度(確認小テストを含む)20点

【テキスト】

1. 食を中心とした化学(北原重登ら、東京教学社)
2. プリント

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - (齋藤勝裕ら、裳華房)
これでわかる基礎有機化学(畔田博文ら、三共出版) イラスト生化学入門(相原英孝ら、東京教学社)

環境生物学

担当教員 松岡 正佳

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少数の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウイルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウイルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外來分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第2版、Jones and Bartlett Learnings (2010年、英文)

情報リテラシー

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

01. 情報教育システムの利用について（森），教務システムLiveCampusの説明（教務課）
02. キーボード・日本語入力練習，E-mailの利活用（森）
03. Wordの基本操作① 段落・ページ設定，段組，段落番号 他（森）
04. Wordの基本操作② インデント，ヘッダー・フッター 他（森）
05. 文献検索（福本直子），インターネットの利活用と情報セキュリティ（森）
06. Excelの基本操作① データ入力，計算式，罫線（森）
07. Excelの基本操作② グラフ描画（森）
08. WordとExcelの連携
09. Excelの応用① オートフィル，絶対参照と相対参照
10. Excelの応用② 様々な関数の利用・関数の検索
11. Excelの応用③ IF関数とIFの組合せ，COUNTIF，SUMIF，AVERAGEIF
12. Excelの応用④ ピボットテーブル
13. PowerPointの基本① スライド作成，デザイン・配色，スライドショー
14. PowerPointの基本② スライドの切り替え効果，図・表・グラフの挿入
15. PowerPointの基本③ オブジェクトのアニメーション，ハイパーリンク

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は，事前に予習をしておくこと。
また，講義中はゆっくりノートをしている時間はないので，復習する中で自分の理解を確かめながら，手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと，筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は，レポート30%，試験70%。
再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜，資料を配布する。

【参考文献】

講義中に，適宜紹介する。

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにもない間われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	尊厳死（川本）
4	安楽死（川本）
5	終末期ケア（川本）
6	周産期医療と生命倫理（松本）
7	小児期の医療・保健と生命倫理（二宮）
8	医療資源の配分（柴田）
9	パーソン論（柴田）
10	パターンリズムと患者の権利（小林）
11	ケアと生命倫理（柴田）
12	自律とwell-being（小林）
13	専門職の役割・責務（小林）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方について把握できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学（ME）器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背景から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのようにいすへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのようにベッドへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように機器への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように衣服への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように履物への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように住宅への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者(看護・介護)へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野(リハビリテーション工学)との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野(福祉環境マネジメント論)との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野(福祉環境工学)との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する:反転学習(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノート作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。ICT活用学習など

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)。3. レポートによる評価(10%)。4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可):学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

小原二郎 著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川鑛一 著「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局、2016年

環境科学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	地域の自然
5	公害
6	地球・生物圏・生態系
7	水と生活環境
8	都市環境と自然
9	大気汚染
10	人工化学物質と環境
11	放射性物質
12	循環型社会
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題についての対策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。今あなたが生きている環境に目を向け、あなたの子孫が生きるであろう環境を考えるきっかけになることを期待する。

【評価方法】

授業への取り組む態度 (50%) レポート提出 (50%)

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

物理学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2	力のモーメント、槌子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3	体の構造と槌子、重心と安定性
4	圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5	速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6	重力と重力加速度、一様重力による運動
7	等速円運動、単振動、波
8	運動量と運動量保存則、はね返り係数
9	仕事と力学的エネルギー
10	種々のエネルギーとエネルギー保存則
11	電場、静電気力；磁場、磁力
12	電流、電位差、オームの法則
13	電磁波、光
14	直流回路、交流回路
15	原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】

黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学を理解しや科学的思考を身に着けることはできないからです。

【評価方法】

筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】

使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に示します。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指します。

【授業の展開計画】

1. 数と単位
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. 2項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみるのが大切です。

【評価方法】

定期試験のみで評価します。

毎回行なう小テストは、理解度を確認するためのものなので、評価には入れませんが、定期試験の問題として出題します（問題文や数字は変更します）。

【テキスト】

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

講義中に、適宜、指示する。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、医療技術系のスタッフとして社会で活躍する皆さんは、人体の構造と働きや医療器具・医薬品などについて正しく理解し、これらの知識をもとに疾病の予防や回復のための対処法についてよく考え、的確に判断をすることが必要になる。そのために、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学など専門基礎分野や専門分野の科目を学修しなければならない。本科目を受講することにより、医療技術系で重要かつ必須の化学的な基礎知識を身につけ、専門基礎分野や専門分野の科目の内容を、科学的（化学的）により深く理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（モルmolと当量Eq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をモルmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とモル濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

定期試験 80%、学習態度（確認小テストを含む）20%

【テキスト】

食を中心とした化学（第4版）（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）
まるわかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）

生物学

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生物のあらゆる生命活動は細胞のはたらきの産物である。ヒトのからだは、二百数十種類、数十兆個の細胞が独自の機能を果たし、同時に、協同的にはたらくことによって維持されている。この授業では「細胞」を軸にして、生物（とくにヒト）のからだの構造とはたらきについて基本的な知識を習得し、専門科目のより深い理解に役立つ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生物の多様性と共通性
2	環境と生命
3	細胞の構造とはたらき
4	生体構成物質
5	代謝
6	エネルギーの獲得と利用
7	酵素のはたらき
8	中間試験
9	遺伝子DNAと染色体
10	遺伝子のはたらき
11	細胞分裂
12	遺伝
13	生殖と発生
14	組織と器官
15	まとめ

【履修上の注意事項】

暗記ではなく、考えて理解しながら、基本的な事柄をじっくりしっかり頭に浸み込ませることに重点を置いて授業する。

【評価方法】

中間試験（50%） 単位試験（50%）

【テキスト】

プリント配布

【参考文献】

1. わかる！身につく！生物・生化学・分子生物学、第2版（田村隆明、南山堂）
2. 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学、第3版（和田勝、羊土社）

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を基礎に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題と種類
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル（1）遊戯療法と箱庭療法
12	介入技法モデル（2）SSTと心理教育
13	介入技法モデル（3）さまざまな相談活動
14	コミュニティモデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

事前に正常と異常の違いについて考え、事後において人としての連続性について理解する。

【評価方法】

1. 受験資格の確保（2/3以上の出席・学則参照）
 2. 期末試験の受験（60点以上の確保・学則参照）
 3. 試験 100点満点評価
- *この講義の「再試」は実施しない

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年
『DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

上妻・新・古堅・古城：看護師として病院勤務経験。柴田：養護教諭として学校勤務経験
第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	サービスとしての看護、看護サービスの提供の場（新）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護（新）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
9	医療安全と医療の質保証（古城）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発、看護職者の養成制度の課題（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護学概論9-12回のまとめ：小テスト、DVD視聴（柴田）
14	看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学 [1]』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齢、障害、母子・寡婦等〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2019年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成30年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2018年）。
内閣府編『（平成30年版）障害者白書』（日経印刷、2018年）。『社会福祉六法』（最新版）。

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

地域保健における現状や課題について、説明とペアを中心としたディスカッションにより学習を構成する。前半は、地域保健の対象や内容など、概要についての理解を中心に展開し、後半は、集団検診や感染症対策などの具体的な内容と事例を中心に展開する。

週	授 業 の 内 容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。（毎回、学習プリント及び資料を配布する）

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

行動療法論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 行動療法の基礎理論や技法を理解する。
- 問題行動を示している子どもの支援において、行動療法を基づいて実際の支援・指導計画を作成することができる。

【授業の展開計画】

【 授業内容 】

1. オリエンテーション
2. 行動療法について
3. 行動療法の特徴
4. 行動療法の動向および認知行動療法
5. 行動療法の知識の概要
6. 行動療法と他の心理療法との相違点
7. 行動療法に必要な条件づけに関する基礎知識
8. 行動療法の諸技法
9. 行動形成法の理論と具体的事例
10. トークエコノミック法と行動の改善
11. 臨床の場面での行動療法
12. 発達障害児の行動改善における行動療法
13. 行動療法の具体的な事例のビデオ鑑賞と説明
14. 具体的な事例と行動療法の適用
15. 具体的な事例と行動療法の適用

【履修上の注意事項】

特にない。

【評価方法】

授業態度及び発表 40点、 レポート 10点、 テスト 50点、 合計 100点

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献】

「行動療法の理論と技術」 内山喜久雄、日本文化科学社

解剖生理学 I

担当教員 肥後 成美

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人体の構造を巨視的（個体・臓器）、微視的（組織・細胞・分子）に観察することで、体の仕組みを学習することができる。

医療従事者として、これらの習得した基本的知識と「生」とを繋げることができる。

特定の教科書に沿った説明はせず、講義内容・配布資料を積み重ねることで一冊の新しい教科書（ダイジェスト版）が完成するような内容を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	解剖生理学総論（歴史、人体構築レベル：原子から器官系まで、細胞の構成）
2	解剖生理学総論（細胞分裂、遺伝子、外皮系：皮膚の構造）
3	解剖生理学総論（骨格系、神経系、循環系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系）
4	解剖生理学総論（組織とその分類：上皮組織・支持組織・骨組織）
5	解剖生理学総論（組織とその分類：筋組織・神経組織）
6	筋系（筋と骨格：関節の構造・筋細胞の構造）
7	筋系（筋と骨格：筋細胞の生理学）
8	頭部骨格系（頭蓋骨の構成と名称）
9	頭部骨格系（鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭部）
10	椎骨の構成と名称（頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎）
11	頭頸部の筋（表情筋、咀嚼筋、咽頭部筋）、頭頸部の筋（斜角筋群）
12	浅背部筋（肩甲骨周辺）、呼吸筋：胸部筋（大・小胸筋、前鋸筋など）、肋間筋
13	喉頭部筋（声帯周辺部）、外眼筋
14	循環器系（心臓の構造、動態、心電図）
15	循環系（頭部血管、全身血管の走行）

【履修上の注意事項】

講義に興味を持つためには内容の理解、そのためには毎回の予習・復習が不可欠です。

毎回授業始めには、前回の内容についての質問を行うことで、学生の理解度を確認している。

【評価方法】

期末試験で判断する。

【テキスト】

講義で使用したスライドと同じ内容のプリント資料を配布する。講義終了時にはこれが教科書となると思う。講義中は教科書を指定することはせず参考文献のみを挙げる。

【参考文献】

「入門 人体解剖学」南江堂、「解剖生理学 人体の構造と機能[1]、坂井建雄・岡田隆夫/編集、医学書院

解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

生き物が生きていく仕組み(生理学)を原子、分子、細胞、組織、器官および個体レベルで学習します。教科書に準拠して講義を進めるので、十分に教科書を読んで下さい。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して、他人に解説できるようになること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	栄養の消化と吸収1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能
2	栄養の消化と吸収2 小腸・大腸の構造と機能
3	栄養の消化と吸収3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
4	呼吸と血液の働き1 呼吸器の構造と呼吸運動
5	呼吸と血液の働き2 ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節
6	呼吸と血液の働き3 血液の組成と機能
7	体液の調節と尿の生成1 腎臓の構造、糸球体・尿細管・傍糸球体装置
8	体液の調節と尿の生成2 糸球体濾過、クリアランスと、排尿の機序、体液の調節
9	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達
10	自律神経による調節
11	内分泌による調節1 ホルモン構造、視床下部、下垂体、甲状腺、膵臓、副腎
12	内分泌による調節2 甲状腺・副甲状腺、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節
13	情報の受容と処理1 中枢神経の構造と機能、末梢神経の構造と機能
14	情報の受容と処理2 脳の高次機能、運動機能、感覚機能、特殊感覚の構造と機能
15	身体機能の防御と適応 皮膚の構造と機能、生体の防御機構

【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

【評価方法】

期末試験(100%)により判定する。

【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能[1])、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

【参考文献】

なし。

生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

○食べ物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。

なお、医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食・栄養面の知識を、効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食行動と管理目標)
2	食生活の課題 (食と健康 食と健康 食文化)
3	日常生活と栄養 (食習慣と栄養 日本人の食事摂取基準)
4	栄養指導・保健指導 (栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝 (1) 炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝 (2) 脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝 (3) ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収 (食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養 (妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養 (学童期・思春期)
11	ライフステージと栄養 (成人期・老年期)
12	疾患別食事指導の実際 (1) 糖尿病、高血圧、脂質異常症
13	疾患別食事指導の実際 (2) 虚血性心疾患 脳卒中等
14	疾患別食事指導の実際 (3) 慢性腎臓病 摂食嚥下障害等
15	経管栄養と中心静脈栄養 (栄養療法 経腸・静脈栄養法・栄養管理におけるチームアプローチ)

【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配付資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること

【評価方法】

筆記試験95% 学習態度5%

【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

【参考文献】

わかりやすい栄養学 (三共出版) 基礎栄養学 (第一出版) 日本人の食事摂取基準 (2015年版) 七訂補日本食品成分表 国民衛生の動向29年版 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表、応用栄養学 (医歯薬出版)

感染症学

担当教員 樋口 マキエ、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働き、② 病気の原因となる微生物と寄生虫の分類と特性（構造、性質、病原性）③ 感染の成立と経過（代表的感染症の起原因菌と臨床症状）について学ぶ。④ 医療現場における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 免疫・生体防御の機構、⑥ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。化学療法薬の面から抗がん薬も付加して学ぶ。

【授業の展開計画】

【授業内容】

【授業担当者】 【授業日程】

選択 他4学科 (2019) 9:10-10:40

- | | | |
|--|------------------------------------|----------|
| 1) 感染症学概論、常在正常細菌叢とその働き | (三森) | 4/05 (金) |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構） | (三森) | 4/12 (金) |
| 3) 細菌と感染 | (三森) | 4/19 (金) |
| 4) 真菌と感染、 | (三森) | 4/26 (金) |
| 5) ウイルスと感染、 | (三森) | 5/10 (金) |
| 6) 寄生虫・原虫と感染 | (三森) | 5/17 (金) |
| 7) 感染に対する生体防御機構(免疫) | (樋口) | 5/24 (金) |
| 8) 医療現場における感染防止対策 (感染管理認定看護師:熊大附病 手塚・樋口) | (樋口) | 5/31 (金) |
| 9) 化学療法薬について | (樋口) | 6/07 (金) |
| 10) 消毒薬(殺菌薬)について | (樋口) | 6/14 (金) |
| 11) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本 | (樋口) | 6/21 (金) |
| 12) 抗菌薬(抗生物質) | (樋口) | 6/28 (金) |
| 13) 抗菌薬(合成抗菌薬)、抗結核薬、抗真菌薬 | (樋口) | 7/05 (金) |
| 14) 抗原虫薬、抗ウイルス薬 | (樋口) | 7/12 (金) |
| 15) 抗がん薬 | (樋口) | 7/19 (金) |
| 16) 単位修得試験 | 選択 他4学科 (9:10-10:30 80min) (樋口・三森) | 8/02 (金) |

【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書2冊を精読し自己学習する。①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(主に4/05～6/28に使用)、②「コメディカルのための薬理学 第3版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(5/24～8/02)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験(100%)は、授業時間に比例した配点で評価する。
講義1～6(40点)、7～15(60点)
- 2) 授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。授業範囲の教科書内容は復習すること。
- 3) 授業内容をよく聞いて、正しく理解しているかで評価する。
- 4) 意味不明な文章の解答は評価しない。

【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫 3版(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3)教員プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第3版(渡辺 他 編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学でも使用-

【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め: 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

薬理学

担当教員 未定、樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。日進月歩の薬物療法が、医療・保健・福祉の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

【授業の展開計画】

【授業内容】

原因療法薬（化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬）については、感染症学と病態生理学Ⅰで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

【授業日程】

薬理学総論	平成30年度（月）	14:50-16:20
1. 薬とは、治験、薬と法令		9/27（木）
2. 生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬		10/01（月）
3. 生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係		10/15（月）
4. 薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬物の動きと反応に影響を与える因子		10/23（火）
5. エイジングと薬		10/29（月）
生体の機能異常（病態）と薬		
6. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作働薬・遮断薬）		11/05（月）
7. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作働薬・遮断薬）		11/12（月）
8. 末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覚神経作用薬（局所麻酔薬）		11/19（月）
9. 代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬		11/26（月）
10. 免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDs）、ステロイド性抗炎症薬		11/28（水）
11. 循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬		12/03（月）
12. 循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬		12/10（月）
13. 循環系作用薬：心不全治療		12/17（月）
14. 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬睡眠薬、		1/07（月）
15. 中枢神経系作用薬：抗不安薬、抗うつ薬抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬		1/21（月）
16. 単位修得試験		1/28（月）

【履修上の注意事項】

- 1) ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 3) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
- 4) 授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

- 1) コメディカルのための薬理学 第3版（渡邊 他編、朝倉書店 3,700円）-感染症学、病態生理学Ⅰでも使用
- 2) 教員作成プリント

【参考文献】

- 1) 看護の基礎固め ひとり勝ち薬理学（自律神経系） 片野/編 メディカルレビュー社 1,600円
- 2) 薬理学 最新版 吉岡, 泉, 伊関著, 医学書院 2,300円
- 3) 『今日の治療薬2018』 浦部, 島田, 川合編, 南江堂

医用工学

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 放射線による検査と治療の基礎を学び、質の高いケアを可能にする。これらの医療行為には、患者の理解と協力が必要で、医療従事者による患者指導が果たす役割は大きい。医療従事者が、診療の目的・内容・方法をよく理解し、適切な前処置や介助を行えば、十分な診療情報が得られ、よい治療効果を可能にする。
- 2) 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解し、医療従事者の役割を正しく把握する。

【授業の展開計画】

【授業の順番と内容】

【授業担当者・日程】

放射線と臨床利用

平成30年(火:10-10:40)

1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。 羽手村 9-25火
2. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合10-02火
3. 放射線画像：CT検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。
また造影剤の特性も理解する。 羽手村10-09火
4. 放射線画像：MRI検査と超音波検査の原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-16火
5. 核医学：放射性同位元素を用いた核医学検査の特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 肥合10-30火
6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法の特徴について理解し、放射線治療の原理（メカニズム）と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法について解説する。 荒木11-06火
7. 放射線治療学： 荒木11-13火

臨床検査

平成30-31年(水13:10-14:40)

8. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 千場11-14水
9. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-21水
10. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口12-05水
11. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、
系統別臨床検査の進め方 千場12-12水
12. 臨床検査各論：一般検査、 千場12-19水
13. 臨床検査各論：血液検査、(検体検査) 化学検査 千場 1-09水
14. 臨床検査各論：免疫・血清検査、ホルモン検査 千場 1-16水
15. 臨床検査各論：微生物検査、病理検査 千場 1-23水
16. 単位修得試験 樋口・千場 1-30水

【履修上の注意事項】

- 1) 医用工学の学習ノートを各自用意し、講義内容の要点を書き留め、その日の内に整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え理解する。意味が解らない時は質問する。
- 3) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参する。
- 4) 数値の単位を理解する。

【評価方法】

筆記期末試験（100＝放射線と臨床応用47＋臨床検査53、但し原則として、両分野とも6割以上の得点で合格とする）。

【テキスト】

『臨床放射線医学』 福田国彦 他9名 著、系統看護学講座 別巻、医学書院

『臨床検査』 奈良信雄 編集、系統看護学講座 別巻、医学書院

【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井正光 編著、金原出版

『解剖生理学』 坂井建雄 岡田隆夫 著、系統看護学講座、医学書院

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として、世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

保健・医療・福祉分野の国際協力の事例を入れて授業を展開する

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か (安藤)
2	政府開発援助 (安藤)
3	政府開発援助の事例 (安藤)
4	NGOによる民間協力 (安藤)
5	NGO による民間協力の事例 (安藤)
6	技術協力の方法 (川原光祐)
7	技術協力の方法の事例 (久家)
8	参加型開発 (久家)
9	参加型開発の事例 (安藤)
10	国際協力の理念 (久家)
11	国際協力の理念の事例 (久家)
12	国際協力の事例 (民間) (久家)
13	国際協力の事例 (政府) (川原英照)
14	国際理解と支援活動 (安藤)
15	今後の国際協力のあり方 (安藤)

【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回出席を心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

資料を準備する

【参考文献】

適宜紹介する

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろいろな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方を検討できる能力を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機管理論オリエンテーション
2	危機管理とは何か
3	危険とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間のバランスと危機管理
10	地方自治体の危機管理
11	住民の避難行動
12	災害支援の方法 1 (災害発生時)
13	災害支援の方法 2 (自活生存)
14	災害支援の方法 3 (避難救助)
15	危機管理についての総まとめ

【履修上の注意事項】

外部講師の講話もあるので、毎回出席することを心がける。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート提出 (80%コメントして返却します。)、授業への取り組み姿勢 (20%)

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンタリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

実技試験(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

機能解剖学

担当教員 岡田 裕隆、中野 聡太

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人(人体)について知識さらに医療現象把握のための基礎力をつけるために、理学療法(評価・治療)を実施する上で必要な運動機能に関わる骨・関節の構造と機能を理解し説明できるようになる。

【授業の展開計画】

岡田・中野：臨床を通し解剖学に関する実務経験を有する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(講義の流れ等の説明)、股関節の骨構造と連結①(岡田)
2	股関節の骨構造と連結②(岡田)
3	股関節の骨構造と連結③(岡田)
4	膝関節の骨構造と連結①(岡田)
5	膝関節の骨構造と連結②(岡田)
6	足部の骨構造と連結①(岡田)
7	足部の骨構造と連結②(岡田)
8	肩関節の骨構造と連結①(中野)
9	肩関節の骨構造と連結②(中野)
10	肘関節の骨構造と連結①(中野)
11	肘関節の骨構造と連結②(中野)
12	手部の骨構造と連結①(中野)
13	手部の骨構造と連結②(中野)
14	脊柱・体幹の骨構造と連結①(中野)
15	脊柱・体幹の骨構造と連結②(中野)

【履修上の注意事項】

触診のため上肢、脊柱の講義の際はTシャツなどの薄手の者を着用し、下肢の際は短パンを着用すること。十分な予習、復習を行うこと。

【評価方法】

レポート、発表、小テスト、受講態度などの日常的学習成果(30%)、定期試験成績(70%)を総合して評価。

【テキスト】

①坂井建雄・他監訳、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器、医学書院 ②河合良訓監修、ホネタン骨単、(株)エヌ・ティー・エス

【参考文献】

①中村隆一編、基礎運動学、医歯薬出版 ②竹内修二著、解剖学トレーニングノート、医学教育出版社

機能解剖学演習

担当教員 岡田 裕隆、中野 聡太

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

人(人体)について知識さらに医療現象把握のための基礎力をつけるために、理学療法(評価・治療)を実施する上で必要な運動機能に関わる筋と運動神経の構造と機能を理解し説明できるようになる。

【授業の展開計画】

岡田・中野：臨床を通し解剖学に関する実務経験を有する。

週	授 業 の 内 容
1	総論・各論 1 股関節に関わる筋 1 (岡田)
2	各論 2 股関節に関わる筋 2 (岡田)
3	各論 3 股関節に関わる筋 3 (岡田)
4	各論 4 膝関節に関わる筋 1 (岡田)
5	各論 5 膝関節に関わる筋 2 (岡田)
6	各論 6 足関節および足部に関わる筋 1 (岡田)
7	各論 7 足関節および足部に関わる筋 2 (岡田)
8	各論 8 肩甲骨腕肩関節に関わる筋 1 (中野)
9	各論 9 肩甲骨腕肩関節に関わる筋 2 (中野)
10	各論 10 肩甲骨胸郭関節に関わる筋(中野)
11	各論 11 肘関節に関わる筋 1 (中野)
12	各論 12 肘関節に関わる筋 2 (中野)
13	各論 13 手関節および手指に関わる筋 1 (中野)
14	総論 14 手関節および手指に関わる筋 2 (中野)
15	各論 15 胸郭・脊柱関連組織(中野)

【履修上の注意事項】

理学療法士に必修となる内容であることから、事前の予習と復習に心がけること。また、触診が可能な服装(短パン等)での参加とする。具体的なものについては、その都度提示する。

【評価方法】

レポート、発表、小テスト等の日常的学習成果(30%)と期試験成績(70%)を総合して評価、もしくは定期試験成績を100%として評価する。

【テキスト】

①運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 株式会社メジカルビュー社 ②運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 株式会社メジカルビュー社

【参考文献】

①プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系 医学書院 ②河合良訓監修、肉単(ニクタン)、(株)エヌ・ティー・エス

解剖生理学Ⅲ

担当教員 肥後 成美

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体の構造を巨視的（個体・臓器）、微視的（組織・細胞・分子）に観察することで、体の仕組みを理解できる。特に解剖生理学Ⅲでは中枢神経系の理解に重点が置かれるので、それらの知識を元に脳の構造と機能を結びつけることができる。医療従事者として、これらの基本的知識の習得が「生」「心」を考えることに繋がっている。特定の教科書に沿った説明はせず、講義内容・配布資料を積み重ねることで一冊の新しい教科書（ダイジェスト版）が完成するような内容を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	循環器系（上肢・下肢血管の走行、泌尿器系の血管走行）
2	循環器系（リンパ系、血液、免疫）
3	呼吸器系（鼻腔の構造、喉頭・声帯の構造）
4	呼吸器系（気管・気管支、肺の構造）
5	循環器系（肺胞、酸素供給の仕組み、呼吸の神経性調節、呼吸器障害）
6	消化器系（口腔：舌・唾液腺の構造、咽頭の構造、嚥下作用）
7	消化器系（食道の構造・機能、胃の構造・機能）
8	消化器系（胃酸分泌の調節機構、十二指腸、結腸）
9	消化器系（門脈、直腸と排便機構、肝臓・胆嚢・膵臓）
10	内分泌系（ホルモンの定義、視床下部と脳下垂体との関係）
11	内分泌系（脳下垂体前葉・後葉ホルモン、甲状腺ホルモン）
12	内分泌系（上皮小体、膵臓、インスリンの作用、カルシウム代謝）
13	内分泌系（副腎皮質、副腎髄質、性ホルモン）
14	泌尿器・生殖器系（腎臓の構造・働き）
15	泌尿器・生殖器系（糸球体・尿管の構造と働き、尿管、膀胱、尿道、排尿のメカニズム）

【履修上の注意事項】

耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、予習・復習は必須です。
毎回授業始めには、前回の内容についての質問を行うことで、学生の理解度を確認している。

【評価方法】

期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

講義で使用したスライドと同じ内容のプリント資料を配布する。講義終了時にはこれが教科書となると思う。教科書を指定することはせず参考文献のみを挙げる。

【参考文献】

「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」野村儀/編集、医学書院、「入門人体解剖学」藤田恒夫/編集、南江堂

解剖生理学演習

担当教員 肥後 成美、中野 聡太

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

人体の構造を立体的に観察し、それぞれの局所構造と全体との関係を理解することで、生きるための営みを1つの流れの中で把握できるようになる。このことを元に障害を持つ人たちの最良の支援につながると考えに至ることができる。骨格観察に際しては、熊本大学から預かり保管している人体骨格標本を使用する。また、熊大医学部でのご遺体の観察機会も得ている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	系統発生学
2	個体発生学
3	ヒトと他動物種との解剖学的比較
4	排卵から受精、着床、胚盤形成、胚子期過程、中枢神経系の形成過程
5	視覚経路、聴覚経路の発生、仕組み
6	全身骨格の作成（骨格標本を全身構造に準えて並べ、観察）
7	体幹骨格の観察（椎骨、骨盤、肋骨、鎖骨、肩甲骨など）
8	頭蓋骨の観察（頭蓋冠、上顎骨、下顎骨、副鼻腔・鼻腔の観察など）
9	上肢骨格（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、手指骨）
10	下肢骨格（大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、足指骨）
11	体幹筋、四肢筋、頭部筋の観察
12	内臓（消化器、呼吸器、尿生殖器系）
13	心臓、脈管系、末梢神経の観察（脊髄神経）
14	中枢神経を支配する血管、髄膜、脳神経の観察
15	中枢神経系の観察（脳幹、脊髄、終脳、間脳）

【履修上の注意事項】

知識で裏打ちされた状態で、積極的に演習に参加して欲しい。演習は全回出席が前提。座学が中心となる講義内容に対しては、予習・復習を毎回行うことで確たる知識を身に付けるよう心掛けること。

【評価方法】

標本スケッチ、レポートを総合的に判断する。

【テキスト】

適宜資料を配付する

【参考文献】

「入門人体解剖学」南江堂

解剖生理学特講

担当教員 肥後 成美、大池 貴行、二宮 省悟、中野 聡太

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士として求められる解剖生理学分野における専門知識および技術について、これまで学んできた知識・技術を再確認し、整理・蓄積することを目的とする。

【授業の展開計画】

回	担当者
1) 生理学 (内分泌・消化器)	肥後
2) 生理学 (内分泌・消化器)	肥後
3) 呼吸生理	大池
4) 呼吸生理	大池
5) 筋生理	二宮
6) 筋生理	二宮
7) 解剖・運動学 (上肢・体幹)	中野
8) 解剖・運動学 (上肢・体幹)	中野

【履修上の注意事項】

履修においては十分な予習復習を行うこと

【評価方法】

学内模試・学外模試の結果をもとに評価する。

【テキスト】

各領域でこれまで使用したテキストおよび配布資料を整理し、持参すること。
その他は適宜連絡する。

【参考文献】

運動生理学

担当教員 松本 直幸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

外部環境の受容、生体内の情報伝達手段など神経系のはたらきの理解も深めながら、運動の呼吸循環器系や代謝系、さらには脳への影響について、そのメカニズムの理解を深める。それによって、自分自身の生活場面や健康科学分野の現場での応用力の向上を目指す。学修者は、人体のしくみとはたらきについて、理学療法士として運動生理学的観点から自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	身体活動基準
2	ダイエットに運動は必須か？
3	メタボリックシンドロームと運動
4	運動時のエネルギー供給
5	酸素摂取量とトレーニング効果
6	筋収縮のしくみ
7	筋トレの生理学
8	脂肪と筋肉
9	姿勢や運動の制御 -脊髄反射と小脳-
10	睡眠の生理学
11	脳のはたらきを覗く
12	運動と脳の健康
13	アルツハイマー病を食い止める！
14	視覚系のはたらき
15	心は見えるか

【履修上の注意事項】

毎回資料を配付する。予習および復習を習慣づけて欲しい。

【評価方法】

期末筆記試験による(100%)

【テキスト】

受講にテキストは必須ではないが、自学のために以下の参考文献を推薦する。

【参考文献】

「運動生理学の基礎と発展」 春日規克、竹倉宏明 編著 フリースペース

人間発達学

担当教員 吉田 勇一

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ねらい：発生から死を迎えるまでの発達を学ぶ。特に小児理学療法を実施する際に必要となる乳幼児期の運動発達を中心に学習する。

到達目標：小児期の正常発達を理解し、発達時期に応じた特徴を説明できるようになる。

【授業の展開計画】

発生～新生児～乳幼児～幼児…の発達を講義形式で教授します。

指定した教科書と配布する資料をベースにして、必要に応じ画像や動画を使用します。

各講義の際に重要なポイントを解説します。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。授業の特徴や進め方について。
2	発達の基本法則、臨界期。発達理論。
3	受精から出生までの胎児運動と母親の変化。
4	神経系の発生、筋骨格系の発達。髄鞘化。
5	新生児の特徴、胎児の自発運動 (General movements)。
6	新生児の評価。
7	原始反射 (脊髄レベル)
8	原始反射 (脳幹レベル)、立ち直り反応、平衡反応。
9	0～3ヵ月の運動発達。
10	4～6ヵ月の運動発達。
11	7～9ヵ月の運動発達。
12	10～12ヵ月の運動発達。
13	12ヶ月以降の運動発達。主に歩行の発達。
14	巧緻動作、視覚、口腔機能の発達。
15	感覚、認知の発達。

【履修上の注意事項】

小児理学療法学、小児理学療法学演習の基礎となる科目。予習内容は授業で指示するので、教科書や配布資料で予習しておくこと。記憶する項目が多いため、授業終了後に必ず復習すること。また授業中や予習復習の時に疑問が生じた場合には速やかに申し出ること。

【評価方法】

期末試験を100%で評価する。

【テキスト】

上杉雅之(監修)：イラストでわかる人間発達学，医歯薬出版株式会社。

上杉雅之(監訳)：乳幼児の運動発達検査—AIMSアルバータ乳幼児運動発達検査法，医歯薬出版株式会社。

【参考文献】

大城 昌平(編集)，リハビリテーションのための人間発達学，第2版、メディカルプレス。

病態生理学 I

担当教員 未定、大河原 進

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、解剖生理学と生理学で学んだ人体の正常な仕組みをきちんと理解していることを前提として、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	病理学入門 病因論 (1) 病理学で学ぶこと (大河原)
2	病理学入門 病因論 (2) 障害と修復 (大河原)
3	腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類、発生原因 (掃本)
4	腫瘍 (2) 腫瘍の発生病理、転移と進行度 (掃本)
5	腫瘍 (3) 腫瘍の診断と治療 (掃本)
6	腫瘍 (4) 腫瘍の診断と治療 (化学療法) (掃本)
7	循環障害 局所性・全身性循環障害 (掃本)
8	代謝障害 (掃本)
9	小テスト 前半まとめ (掃本)
10	感染症 (掃本)
11	老化と死 (掃本)
12	炎症と免疫 (1) 炎症、免疫 (掃本)
13	炎症と免疫 (2) 免疫・アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 (掃本)
14	先天異常 (1) 先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患 (掃本)
15	先天異常 (2) 染色体異常、胎児の障害、診断 (掃本)

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

授業への積極性 (5%)、筆記試験 (95%) で総合的に評価する。60点以上を合格とする。

【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

病態生理学Ⅱ

担当教員 坂下 直実、牛島 正人

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床医学で取り扱う各種疾患についての症候・病態・診断・治療とともにこれらの病気が発生するメカニズムを学びます。総論的な内容を取り扱う病態生理学Ⅰとは異なり、本講義では各器官や臓器の特徴を踏まえて各種疾患の成り立ちとその特徴を理解することを目標とします。

【授業の展開計画】

教科書に準じ、下記の項目について解説する。

週	授 業 の 内 容	
1	呼吸器① 解剖生理・呼吸器感染症	(坂下直実)
2	呼吸器② アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患	(牛島正人)
3	呼吸器③ 間質性肺炎、気道系疾患、肺腫瘍	(坂下直実)
4	呼吸器④ 肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜・縦隔疾患	(坂下直実)
5	循環器① 心不全、高血症	(坂下直実)
6	循環器② 動脈硬化、虚血性心疾患	(坂下直実)
7	循環器③ 不整脈、心臓弁膜症	(坂下直実)
8	循環器④ 心筋疾患、静脈疾患、先天性心疾患	(坂下直実)
9	神 経① 脳血管障害	(坂下直実)
10	神 経② 変性疾患、脱髄性疾患、神経感染症、神経中毒	(坂下直実)
11	神 経③ 神経筋接合部、筋疾患、末梢神経、自律神経	(坂下直実)
12	血 液① 赤血球の疾患	(坂下直実)
13	血 液② 白血球の疾患、出血性疾患	(坂下直実)
14	膠原病・アレルギー（膠原病と関連疾患、全身性アレルギー）	(坂下直実)
15	感覚器（眼・耳鼻咽喉疾患）、体温・酸塩基平衡の調節異常	(坂下直実)

【履修上の注意事項】

講義前に必ず教科書の該当箇所を読んで予習して下さい。講義時間に「講義の要点プリント」を配布しますので、講義当日の夜に講義の要点を自分で整理して下さい（これは講義の復習になります）。試験直前の勉強だけでは講義の内容を理解することは難しいので、上記の予習と復習を必ず行って下さい。

【評価方法】

講義に対して積極的に臨んでいるかを「講義内容についての疑問/質問」レポートによって判定し、成績の10%相当として評価します。学期末に筆記試験を行い結果を成績の90%相当として総合的に評価します。合格点は合計60点以上とします。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

病態生理学Ⅲ

担当教員 未定、安岡 寛理、片渕 美和子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

病態生理学Ⅱに引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。病態生理学Ⅱと同様に、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	消化管（1）食道の疾患、胃・十二指腸の疾患	（掃本）
2	消化管（2）大腸の疾患、肛門の疾患	（掃本）
3	肝/胆/膵（1）肝臓疾患	（掃本）
4	肝/胆/膵（2）胆道疾患、膵疾患	（掃本）
5	代謝/栄養（1）糖尿病、メタボリック症候群	（掃本）
6	代謝/栄養（2）痛風、骨粗鬆症、サルコペニア	（掃本）
7	内分泌 視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	（掃本）
8	皮膚 湿疹・皮膚炎、皮膚感染症	（掃本）
9	女性生殖器（1）月経困難症、子宮内膜症、不妊症	（片渕）
10	女性生殖器（2）子宮癌、乳癌	（片渕）
11	女性生殖器（3）性感染症、更年期障害	（片渕）
12	運動器（1）解剖と生理、外傷、骨折、脱臼・捻挫	（安岡）
13	運動器（2）脊椎・脊髄、上肢・下肢、腫瘍、末梢神経麻痺	（安岡）
14	腎/泌尿器（1）糸球体腎炎、続発性腎疾患、その他の腎疾患	（掃本）
15	腎/泌尿器（2）泌尿器科疾患、腎不全	（掃本）

【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

【評価方法】

授業への積極性（5%）、筆記試験（95%）で総合的に評価する。総合点60点以上を合格とする。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

精神医学

担当教員 肥後 成美

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

脳の基本構造を把握し、個々の部位の総合作用として我々の精神が発動しているということを理解できる。脳の構造と機能を結びつけることで、精神障害の病態像、治療法などに対するより深い理解力を育むことができ、そのことが障害を持つ人たちと接する医療者としての適格な人間形成にもつなげることができる。特定の教科書に沿った説明はせず、講義内容・配布資料を積み重ねることで一冊の新しい教科書（ダイジェスト版）が完成するような内容を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神医学序論（精神医学の方法論、脳の構造、精神の座）
2	精神医学序論（大脳皮質の発生・構造、機能局在）
3	精神医学序論（ニューロンの構造、シナプス、神経伝達物質）
4	精神医学序論（ニューロンの活動電位、脳室、大脳皮質分布動脈の走行と支配領域）
5	精神医学序論（分離脳、前頭葉の働き）
6	精神医学総論（歴史、精神医学における症状）
7	精神医学総論（精神医学における症状と大脳皮質機能局在）高次脳機能障害（失語）
8	高次脳機能障害（失行、失認、前頭葉症候群、側頭葉症候群）
9	精神医学における症状（意識、知能、記憶、感情、自我意識、知覚、思考）
10	精神医学治療学
11	統合失調症（疫学、病因、症状、病型、治療）
12	気分障害（単極性、双極性気分障害）
13	神経症性障害（強迫性障害、解離性障害）
14	身体因性精神病（てんかん）
15	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

【履修上の注意事項】

耳慣れない専門用語を受け入れるためにも、予習・復習を行い授業に臨むこと。
毎回授業始めには、前回の内容についての質問を行うことで、学生の理解度を確認している。

【評価方法】

期末試験の成績で判断する。

【テキスト】

講義で使用したスライドと同じ内容のプリント資料を配布する。講義終了時にはこれが教科書となると思う。よって、教科書を指定することはせず参考文献のみを挙げる。

【参考文献】

「神経解剖カラーテキスト」A. R. Crossman, D. Neary/編集、野村儀・水野昇/訳、医学書院、「精神医学テキスト」上島国利・立山万里/編集、南光堂、「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」上野武治/編集、医学書院

リハビリテーション概論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、リハビリテーションの理念、歴史、障害理論および関連する制度等について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

川俣：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは（定義、理念、思想）
2	リハビリテーションの歴史
3	リハビリテーションと障害医学
4	障害の理論的モデル：ICIDH
5	障害の理論的モデル：ICF
6	リハビリテーションと関連職種
7	医学的リハビリテーション
8	社会的、職業的リハビリテーション
9	リハビリテーションの対象
10	リハビリテーションと社会制度
11	地域リハビリテーション
12	リハビリテーションと環境整備
13	介護予防とリハビリテーション
14	予防医学とリハビリテーション
15	リハビリテーションを取り巻く環境と今後の課題

【履修上の注意事項】

各回の授業テーマと関連するテキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること（120分）。
演習問題は2回以上、解いてください。
出席登録以外の授業中の携帯電話の使用を禁じます。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テスト等を通じて学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

『医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論』（最新版） 上好秋孝、土肥信行編著（永井書店）

【参考文献】

『入門リハビリテーション概論』中村隆一編（医歯薬出版）、『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修（医歯薬出版）、『社会福祉小六法』（ミネルバ書房）、『リハビリテーション』砂原茂一著（岩波新書-139）など

リハビリテーション医学 I

担当教員 加藤 浩、二宮 省悟、山本 良平

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リハビリテーション医学においては、人間の生活や人生を基盤として考える基本概念が貫かれている。その人間の生活に最も影響を与えるものの1つとして運動器がある。そこで、リハビリテーション医学の概念を基に臨床現場で経験することの多い代表的な運動器疾患の疾患特性、障害構造特性を理解し、説明ができるようになる。第2学期以降の運動器理学療法の評価・治療展開につながる基礎を学ぶ。

【授業の展開計画】

加藤・二宮・山本：理学療法士として病院勤務経験

1. オリエンテーション及び足関節靭帯損傷 (二宮)
2. 肩関節周囲炎 (二宮)
3. 椎間板ヘルニア，腰部脊柱管狭窄症 (二宮)
4. 先天性異常，系統疾患 (二宮)
5. 骨軟部腫瘍，熱傷 (二宮)
6. 骨折・脱臼総論 (山本)
7. 上肢の骨折と脱臼 (山本)
8. 脊柱・骨盤の骨折 (山本)
9. 下肢の骨折と脱臼 (山本)
10. 関節リウマチ (山本)
11. 膝関節靭帯損傷 (加藤)
12. 半月板損傷 (加藤)
13. 腸脛靭帯炎，鷲足炎 (加藤)
14. 変形性関節症 (加藤)
15. 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死等） (加藤)

【履修上の注意事項】

リハビリテーション医学は理学療法学の中でも必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習，復習が必要である。

【評価方法】

期末試験（100%）により評価する。

【テキスト】

鳥巢 岳彦・国分 正一総編集：標準整形外科学，医学書院

【参考文献】

その都度、紹介する。

リハビリテーション医学Ⅱ

担当教員 濱田 輝一、大浦 佳子、山本 良平

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 中枢神経系疾患の概要と、対応する理学療法の原理が自分の言葉で説明できる。
2. 中枢神経系疾患の発生機序と障害像についてPTの立場から自分の言葉で説明できる。
3. 中枢神経系疾患の回復過程とリハビリテーションの流れについてPTの立場から自分の言葉で説明できる。
* ICF（または、ICIDH）での説明ができる。

【授業の展開計画】

濱田 輝一：理学療法士として病院勤務経験。
大浦 佳子：理学療法士として病院勤務経験。
山本 良平：理学療法士として病院勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	総論：神経系PTの領域 (濱田)
2	脊髄損傷に対するリハビリテーション<解剖・生理、疫学> (大浦)
3	脊髄損傷に対するリハビリテーション<徴候・診断> (大浦)
4	脊髄損傷に対するリハビリテーション<回復過程・予後> (大浦)
5	末梢神経障害に対するリハビリテーション<解剖・生理、疫学> (大浦)
6	末梢神経障害に対するリハビリテーション<徴候・診断> (大浦)
7	パーキンソン病に対するリハビリテーション<徴候・診断、回復過程・予後> (濱田)
8	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーション<徴候・診断・回復過程・予後> (濱田)
9	筋萎縮性側索硬化症に対するリハビリテーション<徴候・診断・回復過程・予後> (濱田)
10	その他神経筋障害に対するリハビリテーション<徴候・診断・回復過程・予後> (濱田)
11	脳血管障害に対するリハビリテーション<脳解剖> (山本)
12	脳血管障害に対するリハビリテーション<脳生理> (山本)
13	脳血管障害に対するリハビリテーション<運動障害> (山本)
14	脳血管障害に対するリハビリテーション<感覚障害> (山本)
15	脳血管障害に対するリハビリテーション<診断・分類、治療> (山本)

【履修上の注意事項】

計画性を持って学習すること。十分に予習・復習すること。

【評価方法】

期末試験を100%で評価する。但し、授業への取り組み状況(学習態度およびレポートなど)を20%の範囲で成績に加味する。

【テキスト】

1) 理学療法ハンドブック(改定第4版), 協同医書出版? 2) 病気がみえる?? V01.7?? 第1版?? メディックメディア

【参考文献】

- 1) 脳卒中最前線 第4版 医歯薬出版
- 2) ベッドサイド神経のみかた 南山堂
- 3) 理学療法評価学 金原出版
- 4) 脳卒中リハビリテーション 第3版 医歯薬出版

リハビリテーション医学Ⅲ

担当教員 川俣 幹雄、大池 貴行、森下 志子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、呼吸・循環・代謝系疾患の基礎的病態について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

川俣：理学療法士として病院勤務経験

大池：理学療法士として病院勤務経験

森下：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	循環障害とは？（川俣）
2	呼吸障害とは？（大池）
3	免疫機能とは？（森下）
4	感染症とは？（森下）
5	炎症とは？（川俣）
6	感染性肺疾患、塵肺症（川俣）
7	慢性閉塞性肺疾患（大池）
8	間質性肺炎、他（大池）
9	虚血性心疾患（川俣）
10	心臓弁膜症、他（川俣）
11	心不全（川俣）
12	血液、造血器疾患（森下）
13	代謝疾患（森下）
14	膠原病（森下）
15	感染症各論（森下）

【履修上の注意事項】

事前にテキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること（120分）。
また、病態理解の基礎となる解剖学、生理学をしっかりと復習しておくこと。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて学修到達度、課題等についてフィードバックする。

【テキスト】

①標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(最新版) (医学書院)、②標準理学療法学・作業療法学 内科学(最新版) (医学書院)

【参考文献】

適宜、紹介する。

理学療法概論

担当教員 濱田 輝一

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法の歴史、理念、定義、構成要素、およびリハビリテーションにおける位置づけについて体系的に学ぶ。

【授業の展開計画】

濱田輝一：理学療法士として病院勤務経験。

回数	項目	内容
1	総論1	1. 理学療法を取り巻く状況 *世界と日本
2	各論1	2. 理学療法と職業倫理、適性:profession について
3	各論2	理学療法の位置づけと対象
4	各論3	1. リハビリテーションの概念と其中的の理学療法の位置づけ。 2. 理学療法の対象 (つづき)
5	各論4	ICIDH、ICF、訓練と治療。1. 「評価」の意味するもの。2. 評価から治療への流れ。 3. 記録。
6	各論5	理学療法と法規(法律) *後半・特別講義：OTR男武
7	各論6	1. 関連法規(医療法、医師法、他) 2. 関係法規「理学療法士及び作業療法士法」
8	各論7	理学療法の見据えた手段と実際①(体験学習) ※班発表-1 ①基本動作 ②歩行練習 ③運動療法と物理療法、装具療法など(、+ICFの視点)
9	各論8	リハに関わる専門職と連携 ※班発表-2 1. リハに関わる専門職と免許権者 2. 専門職の連携(チーム連携)、並びに職域
10	各論9	理学療法の見据えた手段の実際②(各種疾患) ※班発表-3 1) 整形外科疾患(骨折) 2) 中枢神経疾患(CVDなど) 3) 班学習 *上記①～④の視点
11	各論10	理学療法と職場管理 ※班発表-4 1) 他疾患：抹消神経疾患、呼吸・循環器 3) 班学習 *上記①～④の視点
12	各論11	理学療法と職場管理 ※班発表-5 1) 診療記録の書き方と医科点数 2) 医療保険制度 ※業務管理、チーム医療など
13	各論12	医療面接の基本、態度、質問法分類、心的サポートの手法 *後半・特別講義：OTR男武
14	各論13	教育と研究：理学療法士教育の歴史と現状・課題、研究の意義と方法など
15	総論2	グループワーク(班学習) 振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

理学療法概論は、1年次夏季に実施する見学実習に参加しなければ、受講できないので十分に注意してください。見学実習のオリエンテーションは、別途、実施しますので必ず参加してください。内容が基本的で、広範囲にわたることから、十分な予習と復習に心がけること。発表・報告については、別途提示する。レポート提出では指定された期限に提出しない場合、評価の対象外とする。

【評価方法】

レポート・発表等の日常的学習成果(30%)、定期試験成績(70%)を総合して評価。

【テキスト】

『理学療法概論テキスト』細田多穂監修、南江堂

【参考文献】

『理学療法概論第3版』千住秀明監修、神陵文庫。他、その都度提示する。

運動学

担当教員 加藤 浩

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

臨床現場に直結する運動・動作分析による評価や治療としての運動療法などの基盤となる、身体運動・動作について、解剖学（含、系統発生学）を基礎として運動学的観点から学習する。そして、身体運動・動作のメカニズムを科学的に説明出来るようになる。

【授業の展開計画】

加藤：理学療法士として病院勤務経験

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動器の構造（骨）
- 3回 運動器の構造（関節）
- 4回 運動器の構造（筋）
- 5回 運動器の構造（靭帯・腱）
- 6回 運動器の構造（神経）
- 7回 上肢の運動学（肩甲帯・関節構造について）
- 8回 上肢の運動学（肩甲帯・運動学的特性について）
- 9回 上肢の運動学（肩関節・関節構造について）
- 10回 上肢の運動学（肩関節・運動学的特性について）
- 11回 上肢の運動学（肘関節）
- 12回 上肢の運動学（前腕）
- 13回 上肢の運動学（手関節）
- 14回 上肢の運動学（手指）
- 15回 体幹の運動学（脊柱）

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。運動学は理学療法学の中でも必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

【テキスト】

1. 基礎運動学、中村隆一編、医歯薬出版.

【参考文献】

1. カパンディ関節の生理学：荻島秀男監訳、医歯薬出版 2. 図解関節・運動器の機能解剖－上肢・脊柱編－、井原秀俊他共訳、協同医書出版社.

運動学演習

担当教員 加藤 浩

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

臨床現場に直結する運動・動作分析による評価や治療としての運動療法などの基礎となる身体運動・動作について、解剖学（含、系統発生学）を基礎として運動学的観点から学習する。そして、身体運動・動作のメカニズム（特に下肢）を科学的に説明出来るようになる。

【授業の展開計画】

加藤：理学療法士として病院勤務経験

- 1 下肢の運動（骨盤の構造）
- 2 下肢の運動（骨盤の運動学的機能）
- 3 下肢の運動（骨盤周囲の触診）
- 4 下肢の運動（股関節の構造）
- 5 下肢の運動（股関節の運動学的機能）
- 6 下肢の運動（股関節周囲の触診）
- 7 下肢の運動（膝関節の構造）
- 8 下肢の運動（膝関節の運動学的機能）
- 9 下肢の運動（膝関節周囲の触診）
- 10 下肢の運動（足関節の構造）
- 11 下肢の運動（足関節の運動学的機能）
- 12 下肢の運動（足関節周囲の触診）
- 13 下肢の運動（足部の構造）
- 14 下肢の運動（足部の運動学的機能）
- 15 下肢の運動（足部周囲の触診）

【履修上の注意事項】

運動学同様、日々の予習・復習が重要である。

【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

【テキスト】

【参考文献】

1. カパンディ関節の生理学：荻島秀男監訳、医歯薬出版、2. 図解関節・運動器の機能解剖—下肢編—、井原秀俊他共訳、協同医書出版社

バイオメカニクス

担当教員 加藤 浩

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

バイオメカニクスは、身体運動のメカニズムを力学的側面から究明する学問である。実際に臨床現場あるいはスポーツ現場では、対象者やスポーツ選手の姿勢・動作分析を行う際、バイオメカニクス等の知識を用いて障害構造の評価、運動能力の評価、そして治療プログラムを立案を進めている場合が多い。人が「歩く」、「走る」、「跳躍する」等ということはバイオメカニクスの視点から見れば、どのような意味があるのか？身体運動・動作のメカニズムを生体力学の観点から科学的に説明出来ることを目標とする。

【授業の展開計画】

加藤：理学療法士として病院勤務経験

- 1 オリエンテーション
- 2 力とは何か？「ベクトル」
- 3 身体に働く力「万有引力から重力を捉える」
- 4 身体に働く力「重力加速度」
- 5 身体に働く力「重力実技（動作分析の基礎）」
- 6 身体に働く力「重力実技（起き上がりの動作分析）」
- 7 身体に働く力「運動の3法則」
- 8 身体に働く力「床反力」
- 9 身体に働く力「床反力と摩擦力」
- 10 身体に働く力「筋力」
- 11 身体に働く力「筋パワー」
- 12 身体に働く力「外部関節モーメント」
- 13 身体に働く力「内部関節モーメント」
- 14 身体に働く力「関節パワー」
- 15 身体に働く力「床反力実技」

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。バイオメカニクスは動作分析・姿勢分析を実践する上で必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

【テキスト】

【参考文献】

1. Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析．医学書院，東京，2005，2. 江原義弘・山本澄子：ボディダイナミクス入門 歩き始めと歩行分析．医歯薬出版．2002

バイオメカニクス演習

担当教員 加藤 浩

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

2年次1学期の「バイオメカニクス」で得た知識をもとに、模擬データを使用して実際のデータ処理過程を経験する。そして、グループ内でテーマを決めて、正常ベースにおける歩行動作についてのバイオメカニクスの視点から臨床的意義について考察を深め、プレゼンテーションできることを目標とする。

【授業の展開計画】

加藤：理学療法士として病院勤務経験

- 1 オリエンテーション
- 2 歩行分析の基礎
- 3 歩行周期の分類
- 4 歩行周期における関節角度変化の特徴
- 5 歩行周期におけるCOG変化の特徴
- 6 歩行周期における筋活動変化の特徴
- 7 グループ検討（タイトル決め）
- 8 グループ検討（データ解析）
- 9 グループ検討（データ解析と臨床的考察）
- 10 グループによるスライド作成
- 11 グループによるスライド作成
- 12 PCプレゼン発表（グループ1-4）
- 13 PCプレゼン発表（グループ5-9）
- 14 PCプレゼン発表（グループ10-12）
- 15 全プレゼン発表に対する全体での質疑応答・検討会

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。バイオメカニクスは動作分析・姿勢分析を実践する上で必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

PCプレゼンテーション（20%）、期末試験（80%）にて評価する。

【テキスト】

Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析。医学書院、東京、2005

【参考文献】

統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項 +, -, ×, ÷, √, 累乗, 指数関数, 対数, () 付計算ができる電卓を用意してください。

備考

【授業のねらい】

調査やアンケートなどで得られたデータは、そのままでは役に立たない。大量のデータを客観的、論理的に分析することが必要である。本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	質的データと度数分布表・ヒストグラム
2	量的データと代表値, 分散
3	正規分布, t 分布, χ^2 乗分布とその性質
4	母平均・母分散・母比率の推定
5	検定の考え方, 第1種・第2種の過誤
6	母平均の検定, 対応のある2つの母平均の差の検定
7	対応のない2つの母平均の差の検定
8	ノンパラメトリック検定 (順位和検定)
9	ノンパラメトリック検定 (符号検定)
10	ノンパラメトリック検定 (符号付き順位和検定)
11	母比率の検定 (対応のある場合, ない場合)
12	適合度の検定
13	独立性の検定, マクネマー検定
14	相関関係と相関係数
15	回帰分析

【履修上の注意事項】

テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからないことは、わからないまま済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】

筆記試験の結果のみで判断する。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは用いずに、適宜、プリント資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるのもよいだろう。

理学療法評価学

担当教員 川俣 幹雄、二宮 省悟、大浦 佳子、森下 志子、中野 聡太、角園 恵

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法における評価の意味やその位置付け、および具体的技術について学修する。

【授業の展開計画】

担当教員全員が理学療法士として病院勤務経験

川俣班（川俣・中野・森下）分の内容を第1回～第15回に、二宮班（二宮・大浦・角園）分の内容を第16回～第30回に記載。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	総論（評価の目的と意義） AB	16	関節可動域測定①概論 ②指・体幹総論 AB
2	バイタルサイン（脈拍、脈管系触診） A	17	手(足)指・体幹等 ③手指 AB
3	バイタルサイン（血圧測定） A	18	手(足)指・体幹 ④足趾 AB
4	ボディールランドマーク（触診） A	19	手(足)指・体幹 ⑤体幹等 AB
5	形態測定（上肢長、下肢長） A	20	手(足)指・体幹等振り返り AB
6	形態測定（四肢周径） A	21	関節可動域測定①概論 ②上肢・総論AB
7	技術振り返り A	22	上肢 ③ 肘関節、肩関節 AB
8	バイタルサイン（脈拍、脈管系触診） B	23	上肢 ④ 肩関節 AB
9	バイタルサイン（血圧測定） B	24	上肢 ⑤ 前腕、手関節 AB
10	ボディールランドマーク（触診） B	25	上肢振り返り AB
11	形態測定（上肢長、下肢長） B	26	関節可動域測定①概論 ②下肢・総論 AB
12	形態測定（四肢周径） B	27	下肢 ③ 膝関節、股関節 AB
13	技術振り返り B	28	下肢 ④ 股関節 AB
14	技術振り返り AB	29	下肢 ⑤ 足関節 AB
15	全体の振り返り AB	30	下肢振り返り AB

【履修上の注意事項】

授業内容の予習・復習を徹底すること（120分）。
治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。
技術は、修得するまで反復練習すること。

【評価方法】

知識振り返り50%、技術振り返り50%、計100%で評価する。
各班の知識、技術の評価すべてに60%以上の得点を取った場合のみ、単位認定する。
小テスト等を通じて、学習到達度、課題等についてフィードバックする。

【テキスト】

1) 松澤正著：理学療法評価学, 金原出版（新版）. 2) PT・OTのための測定評価 DVDシリーズ1 ROM測定（三輪書店）（最新刊）

【参考文献】

その都度提示する

理学療法評価学演習 I

担当教員 大池 貴行、岡田 裕隆、森下 志子、吉田 勇一、山本 良平、角園 恵

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、理学療法に必要な各評価技術について、評価の目的を理解し、基本的な評価技術を学習する。本科目を通して、学修者は評価の目的と方法について言葉で説明できるようになる。また学修者は、基本的な評価技術を実施できるようになる。

【授業の展開計画】

大池班（大池・森下・吉田）分の内容を第1回～第15回に、岡田班（岡田・山本・角園）分の内容を第16回～第30回に記載する。Aグループ・Bグループをそれぞれ入れ替えて実施する。2コマ連続で実施し、2コマを1単元として実施する（岡田班の22回目は1コマ目B、2コマ目Aなので注意）。
*当科目担当教員 全員が理学療法士として病院勤務経験
*1～15回担当者：大池、森下、吉田、16～30回担当者：岡田、山本、角園

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	知識確認 A B	16	徒手筋力検査法 (MMT) 総論 A B
2	感覚検査 (総論、各論：表在感覚) A	17	各論 (肩関節) B
3	感覚検査 (各論：深部感覚) A	18	各論 (肩甲帯、肩関節) B
4	反射検査 (総論、各論：深部反射) A	19	各論 (肘関節・前腕・手関節・手指) B
5	反射検査 (各論：表在反射・病的反射) A	20	各論 (股関節) B
6	反射検査 (まとめ) A	21	各論 (膝関節・足関節・足指) B
7	感覚検査 (まとめ) A	22	各論 (頸部・体幹) B
8	脳神経検査 (各脳神経検査実技) A	23	振り返り B
9	感覚検査 (総論、各論：表在感覚) B	24	各論 (肩関節) A
10	感覚検査 (各論：深部感覚) B	25	各論 (肩甲帯、肩関節) A
11	反射検査 (総論、各論：深部反射) B	26	各論 (肘関節・前腕・手関節・手指) A
12	反射検査 (各論：表在反射・病的反射) B	27	各論 (股関節) A
13	反射検査 (まとめ) B	28	各論 (膝関節・足関節・足指) A
14	感覚検査 (まとめ) B	29	各論 (頸部・体幹) A
15	脳神経検査 (各脳神経検査実技) B	30	振り返り A

【履修上の注意事項】

履修時は実習着を必ず着用すること。治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。演習科目であることから、十分な予習と、履修後に復習を行うこと。

【評価方法】

“各班（大池班・岡田班）の知識、技術をそれぞれ100%で評価する。そしてすべてについて60%以上の評価を得た場合のみ履修認定を行う。つまり1つでも不合格（60%未満）の場合はすべてを再履修すること（不合格の評点が最終評価点となる）。さらに授業への取り組み状況を成績に加味する。評価技術の確認後、評価技術についての助言等のコメントをする。”

【テキスト】

1) 田崎義昭：ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂（購入未確認），2) 松澤正著：理学療法評価学 第6版 金原出版（購入済），3) 津山直一訳：新・徒手筋力検査法，第9版，協同医書出版社（購入未確認）

【参考文献】

その都度提示する

理学療法評価学演習Ⅱ**担当教員** 濱田 輝一、加藤 浩、角園 恵、中野 聡太、山本 良平**配当年次** 3年**開講時期** 第1学期**単位区分** 必修**授業形態** 演習**単位数** 1**準備事項****備考****【授業のねらい】**

臨床実習を前提とした、各評価技術の確認と習熟を目標として、各単元の技術が確実にできるようにする。

【授業の展開計画】

5名の教員全員が、理学療法士として病院勤務経験。

ABクラスを3グループに分け、5名の教員が各項目を5コマずつ（計15コマ）担当し、学生は各項目について5コマずつでローテーションする。

1. 形態測定（四肢長、周径）、反射検査 : 5コマ（濱田）
1)四肢長・上肢 2)同・下肢 3)周径 4)反射検査 5)小テスト(実技)と振り返り
2. ROMテスト : 上肢・頸部・体幹・下肢 : 5コマ（中野、山本）
1)上肢 2)頸部・体幹 3)下肢：股・膝 4)下肢：足・足部 5)小テスト(実技)と振り返り
3. MMT : 上肢、下肢・頸部・体幹 : 5コマ（加藤、角園）
1)頸部・肩甲帯 2)肩・肘・手 3)膝・足 4)体幹・股関節 5)小テスト(実技)と振り返り

【履修上の注意事項】

確実な技術の取得・習熟にあることから、十分な予習・復習すること。また履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみとすること。

【評価方法】

全ての単元(コマ)の知識・技術をそれぞれ100%で評価する。また全てについて60%以上の評定を得た場合に履修認定を行う。なお、評定においては、レポートや授業への取り組み状況を成績に加味する。これらが不十分な場合（レポート、取組不良など）は、評点から減点とする。

【テキスト】

1)田崎義昭：ベッドサイドの神経のみかた、南山堂（購入未確認）2)松沢正：理学療法評価学、金原出版（購入未確認）3)津山直一訳：新徒手筋力検査法第9版、共同医書出版社（購入未確認）

【参考文献】

1)PT・OTのための測定評価 DVDシリーズ1 ROM測定（三輪書店）（最新刊）2）その他は、その都度提示する。

運動療法学

担当教員 岡田 裕隆

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

運動療法の定義、理学療法における位置付け、歴史、各治療技術、原理について学習する。また、各治療技術が生体におよぼす効果・影響等について、生理学や病理学等の基礎医学的な裏付けについても学習する。

1. 運動療法の定義、理学療法における位置付け、歴史について理解する。
2. 運動が生体におよぼす効果・影響について基礎医学的側面を踏まえて理解する。
3. 各治療技術の原理、原則、適応、禁忌について理解する。

【授業の展開計画】

岡田：臨床を通し運動療法の実務経験を有する。

1. オリエンテーション、総論：運動療法とは（定義、位置付け、歴史 等）
2. 運動が生体におよぼす効果・影響、運動の種類と運動が持つ特性
3. 関節可動域運動（伸張運動を含む）1
4. 関節可動域運動（伸張運動を含む）2
5. 関節可動域運動（伸張運動を含む）3
6. 関節可動域運動（伸張運動を含む）4
7. 筋力増強運動1
8. 筋力増強運動2
9. 筋力増強運動3
10. 筋力増強運動4
11. 持久力運動
12. 協調性運動
13. 神経 - 筋筋再教育（神経生理学的アプローチ）
14. 全身調整運動、リラクゼーション、その他の治療体操
15. 振り返り（まとめ）

【履修上の注意事項】

実技に関しては、受講者数等に状況により学生の履修に支障があると判断される場合には、2クラスに分けて実施する。十分な予習復習を行うこと。

【評価方法】

講義途中に出される課題レポートおよびテスト等10%、期末試験90%で評価する。課題レポートおよびテストを課さない場合は、その配分を期末試験に組み入れる。

【テキスト】

シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 南江堂

【参考文献】

①運動療法 大井淑雄、博田節夫編 医歯薬出版 ②コーチのためのトレーニングの科学 松井秀治編 大修館書店 ③Krusen's handbook of physical medicine and rehabilitation Kottke et.al. Saunders. 等

運動療法学演習

担当教員 岡田 裕隆、大浦 佳子、角園 恵

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

運動療法学で学習した内容を基に、実技(治療技術)の部分を重点的に学習し、臨床実習や将来的に理学療法士として治療を実施できる。

【授業の展開計画】

すべての教員が理学療法士として臨床を通し運動療法に関する実務経験を有する。

実技中心として進めていく。

1. ①オリエンテーション、総論：運動の種類とその特性など(岡田)
2. ROM実習1(岡田)
3. ROM実習2(岡田)
4. ROM実習3(岡田)
5. ROM実習4(岡田)
6. 筋力訓練1(角園)
7. 筋力訓練2(角園)
8. 筋力訓練3(角園)
9. 筋力訓練4(角園)
10. 神経筋再教育、治療体操など(大浦)
11. 神経筋再教育、治療体操など(大浦)
12. 神経筋再教育、治療体操など(大浦)
13. 神経筋再教育、治療体操など(大浦)
14. 実技確認(岡田・大浦・角園)
15. 実技確認(岡田・大浦・角園)

以上の内容にて実施するが講義順序は受講者人数や講義習得の効率を考慮し変動する。
詳細はオリエンテーション時に説明する。

【履修上の注意事項】

講義の際は実習服を必ず着用すること。十分な予習復習を行うこと。

【評価方法】

講義途中に出される課題レポートおよび小テスト、実技テスト、期末試験(筆記・実技)で評価する。課題レポートおよび小テスト、実技テストを課さない場合は、その配分を期末試験に組み入れる。

【テキスト】

シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 南江堂

【参考文献】

①運動療法 大井淑雄、博田節夫編 医歯薬出版 ②コーチのためのトレーニングの科学 松井秀治編 大修館書店③Krusen's handbook of physical medicine and rehabilitation Kottke et.al. Saunders.等

物理療法学

担当教員 二宮 省悟

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 理学療法分野である物理療法について、その定義・歴史・分類・生理学的作用・適応・禁忌等について基本的知識を学習し、PTの立場から、自分の言葉で説明ができる。
2. 各物理療法機器について、治療目的・操作方法などについて、PTの立場から、自分の言葉で説明ができる。

【授業の展開計画】

二宮：理学療法士として病院勤務経験

以下の項目について講義を行う。

1. 物理療法とは（定義、歴史等）、理学療法における物理療法の位置付け
2. 物理的作用が生体におよぼす影響について（生理学的作用）
3. 温熱療法（1）
湿熱と乾熱、表在温熱と深部温熱
4. 温熱療法（2）
温熱療法の種類（それぞれの適応・禁忌を含む）
 - ①ホットパック
 - ②赤外線
 - ③紫外線
 - ④パラフィン浴
 - ⑤その他の温熱療法
5. 温熱療法（3）
 - ⑥超短波ジアテルミー
 - ⑦極超短波ジアテルミー
 - ⑧超音波ジアテルミー
6. 寒冷療法（種類と適応・禁忌を含む）
7. 水治療法（種類と適応・禁忌を含む）
8. 牽引療法（種類と適応・禁忌を含む）
9. 電気治療（1）低周波・干渉波
10. 電気治療（2）その他の電気療法
11. 温熱療法・寒冷療法（1）操作および体験
12. 温熱療法・寒冷療法（2）操作および体験
13. 電気治療（1）操作および体験-低周波・干渉波
14. 電気治療（2）操作および体験-その他の電気療法
15. 臨床で使用する場合のリスク管理について

【履修上の注意事項】

生理学・解剖学・運動学・物理学の既有知識が「物理療法学」の学習を助けてくれます。この講義の受講前に復習をしておくことより理解が早いです。講義前にテキストを読み、各物理療法機器について調べ、予習すること。また講義後は、身につけた知識を定着させるため、復習を必ず行うこと。「操作および体験」に関しては、実習服を用います。事前にアナウンスします。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。計60%以上の評価を得た場合にのみ履修認定を行う。さらに授業への取り組み状況を成績に加味する（授業の取り組みが不十分の場合にはそれぞれ評点より減点する）。

【テキスト】

標準理学療法学 物理療法学 第4版 網本 和（編） 医学書院

【参考文献】

理学療法ハンドブック 理学療法ハンドブック改訂第4版 協同医書出版社
EBM物理療法 原著第3版 Michelle H. Cameron 編著／渡部一郎 訳 医歯薬出版株式会社

物理療法学演習

担当教員 二宮 省悟

配当年次 再履修者（3・4年）

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 1

【授業のねらい】

物理療法学の授業で学んだことを踏まえ、学修者は理学療法士の立場から、臨床場面で必要となる物理療法の基本的な評価技術、治療技術について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

二宮：理学療法士として病院勤務経験

物理療法学で学んだ、機器の適応・禁忌・機器の取り扱いを含めた、実技中心の授業を行う。

内容は、以下の通り。

1. 温熱療法 ホットパック
2. 温熱療法 赤外線治療
3. 温熱療法 紫外線治療
4. 温熱療法 パラフィン浴
5. 温熱療法 極超短波療法
6. 寒冷療法 アイスパック
7. 寒冷療法 クリッカー
8. 寒冷療法 氷嚢
9. 水治療法 渦流浴
10. 牽引療法 頸椎牽引、腰椎牽引
11. 電気治療 低周波治療
12. 電気治療 干渉波治療
13. 超音波療法
14. ハドマー
15. 臨床で使用する場合のリスク管理について

【履修上の注意事項】

物理療法学で学んだ既有知識が必要になるため、講義前にテキストを読み、各物理療法機器について調べ予習すること。また授業後は、復習を必ず行うこと。実技指導時は実習着を必ず着用すること。治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。

【評価方法】

レポート試験100%で評価する。60%以上の評価を得た場合にのみ履修認定を行う。さらに授業への取り組み状況を成績に加味する（授業の取り組みが不十分の場合にはそれぞれ評点より減点する）。

【テキスト】

物理療法学の教科書・配付資料を使用。

【参考文献】

理学療法ハンドブック 理学療法ハンドブック改訂第4版 協同医書出版社

EBM物理療法 原著第3版 Michelle H.Cameron 編著／渡部一郎 訳 医歯薬出版株式会社

義肢・装具学

担当教員 帆鷺 輝誌男

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

義肢装具の定義・目的・構造・機能・素材等の基本的な知識と理学療法における位置付けおよび理学療法適合判定について学習する。

学習者は、義肢・装具について、理学療法士の立場から、自分の言葉で説明出来るようになる。

【授業の展開計画】

帆鷺：義肢装具士として株式会社ホワシ勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	装具概論 定義・体系別装具の分類・機能による分類 (帆鷺)
2	装具各論 体幹装具 (頸椎装具・仙腸装具) 目的・種類・機能・適応 (帆鷺)
3	装具各論 体幹装具 (腰仙椎装具・胸腰仙椎装具) 目的・種類・機能・適応 (帆鷺)
4	装具各論 体幹装具 (側弯症装具) 目的・種類・機能・適応 (帆鷺)
5	装具各論 上肢装具 (手関節装具・指装具・把持装具等) 目的・種類・機能・適応 (帆鷺)
6	装具各論 靴型装具 (定義・基本・靴の補正) 種類・機能・適応 (帆鷺)
7	装具各論 下肢装具 (短・長下肢装具・膝装具・特殊装具) 目的・種類・機能・適応 (帆鷺)
8	装具各論 下肢装具 (チェックアウト・付属品) 種類と構成 (帆鷺)
9	義肢概論 定義・構成要素・構造・機能・切断部位による分類 (帆鷺)
10	義肢各論 下腿義足 (ソケットの種類・特徴) (帆鷺)
11	義肢各論 下腿義足 (アライメント・調整について) (帆鷺)
12	義肢各論 大腿義足 (ソケットの種類・特徴) (帆鷺)
13	義肢各論 大腿義足 (異常歩行のチェックアウト) (帆鷺)
14	義肢各論 膝義足・股義足 (ソケットの種類・特徴) (帆鷺)
15	義肢各論 義手 (前腕義手・上腕義手・筋電義手) 種類・機能・チェックアウト (帆鷺)

【履修上の注意事項】

十分に予習・復習を行うこと。

【評価方法】

レポート10%、定期試験90%で評価する。
フィードバックとしてレポートにコメントして返却します。

【テキスト】

「義肢装具学テキスト」 (南江堂) 「義肢装具のチェックポイント」 (医学書院)

【参考文献】

その都度、提示する。

義肢・装具学演習

担当教員 二宮 省悟

配当年次 再履修者（3・4年）

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

二宮：理学療法士として病院勤務経験

義肢・装具学の授業で学んだことを踏まえ、学修者として理学療法士の立場から臨床場面で必要となる理学療法に関連した義肢装具の基本的な評価技術、治療技術について実施できるようになる。

【授業の展開計画】

義肢装具学で学んだ知識を元に、授業は以下の通り行う。

週	授 業 の 内 容
1	PTと義肢装具の関係（総論）
2	体幹装具（頰椎装具の適応疾患とチェックアウト）
3	体幹装具（腰仙椎・胸腰仙椎装具の適応疾患とチェックアウト）
4	上肢装具（適応疾患とチェックアウト）
5	上肢装具（装着と効果について）
6	下肢装具（適応疾患と種類）
7	下肢装具（装着と効果について）
8	下肢装具（長下肢装具の適応疾患と種類、継手の調整と選択、チェックアウトについて）
9	下肢装具（長下肢装具の装着と効果について）
10	下肢装具（短下肢装具の適応疾患と種類、継手の調整と選択、チェックアウトについて）
11	下肢装具（短下肢装具の装着と効果について）
12	義肢（上肢・下肢の義肢について 適応疾患、種類）
13	義肢（大腿義足と下腿義足の種類別効果について、チェックポイント）
14	義足の不良による異常歩行と改善点について
15	症例検討（義肢・装具）

【履修上の注意事項】

義肢・装具学で学んだ既有知識が必要になるため、講義前にテキストを読み、義肢並びに装具について調べ学習すること。また授業後は、復習を必ず行うこと。

【評価方法】

レポート試験60%、期末試験40%で評価する。60%以上の評価を得た場合にのみ履修認定を行う。さらに授業への取り組み状況を成績に加味する（授業の取り組みが不十分の場合にはそれぞれ評点より減点する）。レポートについては口頭にてコメントを伝え、フィードバックを行う。

【テキスト】

義肢・装具学の授業と同じテキストを使用。「リハビリテーション 義肢装具学」（メジカルビュー社）「義肢装具のチェックポイント」（医学書院）

【参考文献】

その都度、提示する。

日常生活行動学

担当教員 大池 貴行

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士には、患者の障害の特性を理解し、環境因子に配慮した最適な理学療法アプローチが求められる。本科目では「運動」、「動作」、「行為」の視点から障がい者の日常における行動、障害を評価することを学ぶ。また障害へのアプローチ方法、リハビリ機器の選定について学ぶ。

本科目を通して、学修者は疾患の特性を捉え、ADL評価できるようになる。また障害に対し、適切な指導方法や介助方法、リハビリ機器選定について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

担当者：大池 理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	ADLの概念
2	基本動作・複合動作1（日常生活における動作の観察ポイント）
3	基本動作・複合動作2（正常な基本動作）
4	基本動作・複合動作3（障害ある動作と正常動作の違い）
5	リハビリテーション支援機器
6	中枢疾患のADL1（ADLにおける障害の特性）
7	中枢疾患のADL2（ADL評価）
8	中枢疾患のADL3（ADLアプローチ）
9	運動器疾患1（ADLにおける障害の特性）
10	運動器疾患2（ADL評価）
11	運動器疾患3（ADLアプローチ）
12	呼吸循環器疾患のADL1（ADLにおける障害の特性）
13	呼吸循環器疾患のADL2（ADL評価）
14	呼吸循環器疾患のADL3（ADLアプローチ）
15	総 括

【履修上の注意事項】

治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。

本講で学んだ実技は、的確に行えるように各自練習すること。

各疾患のADL評価を理解するために疾患の特性を事前に学習しておくこと。

【評価方法】

100点中、日常的な学習態度および課題レポート20%、期末筆記試験80%にて評価する。

なお課題レポートに対して、ディスカッションを通して助言等のコメントをする。

【テキスト】

千住秀明 監修：日常生活活動（ADL）第2版，神陵文庫

【参考文献】

世界保健機関（WHO）；国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－，中央法規

日常生活行動学演習

担当教員 大池 貴行、中野 聡太

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士によるADLアプローチは、対象となる患者および障がい者の身体状況、疾患の特性を踏まえ、個々の障がい像に対応したアプローチが必要である。

本科目では、疾患特性に応じたADL動作の実演と介助方法を学ぶ。また適切なリハビリ機器の選択と使用方法について学ぶ。本科目を通して、学修者は障害の特性に応じた起居動作、移乗動作、歩行の介助ができるようになる。またリハビリ機器の適切な選定と使用方法について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

中枢班（中野）分の内容を第1回～第15回に、運動器班（大池）分の内容を第16回～第30回に記載する。

Aグループ・Bグループをそれぞれ入れ替えて実施する。

* 1～15回担当者：中野 理学療法士として病院勤務経験

* 16～30回担当者：大池 理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	脳血管疾患ADL総論	16	運動器疾患の動作観察1（起居動作1）
2	脳血管疾患のポジショニング1	17	運動器疾患の動作観察1（起立・移乗動作）
3	脳血管疾患のベッド上移動1	18	運動器疾患の車いす移動1（駆動と介助）
4	脳血管疾患の起き上がり1	19	運動器疾患の歩行1（松葉杖歩行）
5	脳血管疾患の坐位・立ち上がり1	20	運動器疾患の歩行1（T字杖等による歩行）
6	脳血管疾患の移乗の基本1	21	運動器疾患の移動動作1b（階段昇降等）
7	脳血管疾患の移乗の応用1	22	運動器疾患ADL実技の振り返り1
8	脳血管疾患ADL実技の振り返り1	23	運動器疾患の動作観察2（起居動作1）
9	脳血管疾患のポジショニング2	24	運動器疾患の動作観察2（起立・移乗動作）
10	脳血管疾患のベッド上移動2	25	運動器疾患の動作観察2（起立・移乗動作）
11	脳血管疾患の起き上がり2	26	運動器疾患の車いす移動2（駆動と介助）
12	脳血管疾患の坐位・立ち上がり2	27	運動器疾患の歩行2（松葉杖歩行）
13	脳血管疾患の移乗の基本2	28	運動器疾患の歩行2（T字杖等による歩行）
14	脳血管疾患の移乗の応用2	29	運動器疾患の移動動作2（階段昇降等）
15	脳血管疾患ADL実技の振り返り2	30	運動器疾患ADL実技の振り返り2

【履修上の注意事項】

履修時は実習着を必ず着用すること。治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。

本講で行った実技を的確に行えるよう各自で練習すること。

事前学習として、「日常生活行動学」で学んだ起居動作、杖歩行、移乗動作について復習すること。

【評価方法】

実技試験100%

ADL実技振り返りでは、ADL実技に関する助言等のコメントをする。

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜資料を配布する。

生活環境学

担当教員 大浦 佳子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士として必要な生活環境および法的制度などに関する知識を学習する。
高齢者や障害者が暮らしやすい生活環境整備について住宅改修、福祉用具を中心に評価と実際を学ぶ。

【授業の展開計画】

担当教員は理学療法士として病院勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、総論
2	生活環境整備の留意点
3	関節可動域と日常生活活動
4	バリアフリーの関連諸制度
5	住環境についての考え方
6	住環境についての諸制度
7	福祉用具について
8	障害別住宅改造例
9	関連領域との連携
10	福祉住環境整備の共通基本技術
11	生活行為別福祉住環境整備の手法
12	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
13	生活環境改善計画の実際 生活環境の評価（グループワーク）
14	生活環境改善計画の実際 生活環境の改善計画（グループワーク）
15	まとめ（発表）

【履修上の注意事項】

グループワークは、グループ別に評価・調査・体験などを行います。
グループではお互いに建設的に協力して計画・行動し、課題レポート作成および発表の準備をすること。
地域実習において理学療法評価、住環境整備、動作介助を体験することも視野に入れ、十分に予習・復習を行うこと。

【評価方法】

期末試験80%、課題レポート20%にて評価する。

【テキスト】

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂版／東京商工会議所 編
理学療法学テキストX 生活環境論／千住 秀明 監修 橋元 隆・千住 秀明 編集 九州神陵文庫

【参考文献】

伊藤隆夫・他 編集/図解 訪問理学療法技術ガイド 訪問の場で必ず役立つ実践のすべて/文光堂, 木村哲彦監修/生活環境論/医歯薬出版, 改訂版 自助具ハンドブック・福祉用具支援論 自分らしい生活を作るために

地域理学療法学

担当教員 濱田 輝一

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会の中でも特に地域（社会）を実践場面とする理学療法士の役割と方法について、リハビリテーションの理念に元づき学習する。具体的には、理学療法の対象となる疾病や障害を持った患者様に関わる社会生活について、また生活を支える仕組み（関連多職種との連携や社会資源の活用など）を学び、将来の地域における活動ができる様にする。更に応用的領域である、世界の地域における理学療法士の活動も学ぶ。

【授業の展開計画】

濱田輝一：理学療法士として病院勤務経験。

外部講師、および内部職員：理学療法士、および作業療法士として病院勤務経験。

回 単元 内容

1. 総論 1 理学療法士と地域理学療法（地域PT）の関係
2. 総論 2 生活様式の変遷（生活、及び文化）、社会構造と法
3. 総論 3 地域とは？ リハビリテーションの理念と地域リハ（WHOの取組：CBRとICF）
4. 総論 4 ヒトの生活① 生活者のライフステージ（発達と老化）、健康と障害、ICF
ヒトの生活② ICFの心理的因子、環境因子（住宅環境の基本知識）とは？
5. 各論 1 地域PTを支えるシステム①日本国憲法と福祉法-1（歴史）*発表-1、2
6. 各論 2 地域PTを支えるシステム②社会福祉法-2(福祉三法) *発表-3、4、5
7. 各論 3 地域PTを支えるシステム③福祉法-3(他) *発表-6、7、8
8. 各論 4 地域PTを支えるシステム③(つづき) *発表-9
地域PTを支えるシステム④リハ医療のシステム #年金、医療保険制度
9. 各論 5 地域PTを支えるシステム⑤ 地域連携における理学療法士の役割（外部講師）
10. 各論 6 生活環境の整備 住宅の構造と生活者に応じた整備の基本（改造など）
11. 各論 7 地域PT実践の基本①生活者（ICIDH、ICF）の視点から；問題点の抽出と解決法。
12. 各論 8 地域PT実践の基本②(①の続き) *発表-10、11、12、13
13. 各論 9 地域PT実践の具体例①(内部職員との協働) OTの例
14. 各論 10 地域PT実践の具体例② JICAでの理学療法士の役割（外部講師）
15. 振り返りとまとめ

【履修上の注意事項】

内容が基本的で、広範囲にわたることから、十分な予習と復習に心がけること。発表・報告については、別途提示する。レポート提出では指定された期限に提出しない場合、評価の対象外とする。

【評価方法】

レポート・発表等の日常的学習成果(30%)、定期試験成績(70%)を総合して評価。

【テキスト】

①奈良勲監修、牧田光代編集、標準理学療法学 地域理学療法学、医学書院、②ワイド版社会福祉小六法2019〈資料付〉、ミネルヴァ書房

【参考文献】

①柳沢健編集、理学療法学 ゴールドマスター・テキスト7 地域理学療法学、メディカルビュー社、②東京商工会議所編、福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト・改訂版

地域理学療法学実習

担当教員 大浦 佳子

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 実習

単位数 1

【授業のねらい】

病院・施設・在宅など対象者（利用者）を取り巻く、広義の地域サービスにおけるリハビリテーション（理学療法）の見学・体験や、看護・介護としての日常生活介助（支援・援助）の体験を通して、対象者（利用者）とのコミュニケーション、介助法、チームアプローチ、老年期（小児期）の疾患の理解、疾患に対する理学療法評価および治療などについて理解する。

【授業の展開計画】

担当教員は理学療法士として病院、介護老人保健施設の勤務経験。

以下の理学療法アプローチについて、患者モデルで学習する。

病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、重症心身障害児施設、肢体不自由児通園施設等のいずれかにおいて、学外における実習を行う（事前・事後指導については学内で実施する）。

1. リハビリテーション（理学療法士）業務を見学あるいは体験する。
2. 日常生活支援・援助を体験する。
3. 対象者（利用者）とのコミュニケーションを図り、コミュニケーションスキルを向上させる。
4. 各機関の機能を理解する。
5. 他職種の業務を理解し、チームアプローチの重要性を理解する。
6. 老年期（小児期）の疾患を理解する。
7. 老年期（小児期）の疾患に対する理学療法評価および治療を理解する。
8. 可能な範囲で理学療法に関する評価技術および治療技術を体験する。

（事前指導）

実習に赴くにあたりオリエンテーションと共に、

- ①必要な知識
 - ②コミュニケーションスキル
 - ③接遇
- 等について、グループワークを実施する。
- ④確認テスト（知識・技術）

（事後指導）

実習書類の提出、振り返りなどを実施する。

【履修上の注意事項】

リスク管理には十分配慮し、事故・怪我等が発生しないように細心・最善の注意を払って実習すること。現場指導者の指示に必ず従い、勝手な行動は厳に慎むこと。

【評価方法】

原則として事前指導に出席しない学生は、施設での実習を許可しない。評価は、事前指導（20%）実習状況（40%）、実習記録などの提出物、現場指導者の意見、事後指導（40%）で評価する。再実習は実施しない。また追試験（追実習）は物理的に可能な範囲で考慮するが、原則として実施しない。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

伊藤隆夫・斉藤秀之・有馬慶美編：図解 訪問理学療法技術ガイド，文光堂
中島洋子編：スキルアップパートナーズ 病棟で生かす！高齢者ケアの実践，照林社

基礎理学療法学特講

担当教員 二宮 省悟、森下 志子、中野 聡太、角園 恵

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士の立場から基礎理学療法分野における専門知識および技術について、これまで学んできた知識・技術を再確認し、整理・蓄積することを目的とする。また、その知識・技術を説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	装具学1（下肢装具：KAFO、AFOなど）（角園：理学療法士として病院勤務経験）
2	装具学2（下肢装具：その他の下肢装具、靴型装具）（角園：理学療法士として病院勤務経験）
3	装具学3（上肢装具、頸椎装具、体幹装具）（中野：理学療法士として病院勤務経験）
4	義肢学（義手）（二宮：理学療法士として病院勤務経験）
5	義肢学（義足）（二宮：理学療法士として病院勤務経験）
6	物理療法学（二宮：理学療法士として病院勤務経験）
7	排尿生理（森下：理学療法士として病院勤務経験）
8	病理学（森下：理学療法士として病院勤務経験）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

広範囲にわたる知識、技術が要求されるため、4年間の知識の復習が必要である。また、講義においては各授業テーマについて予習を十分行うこと。

【評価方法】

学内模試、学外模試の結果をもとに評価する。

【テキスト】

各領域の科目でこれまで使用したテキストおよび配布資料を整理し、持参すること。
その他は適宜連絡する。

【参考文献】

特に指定しないが、今まで使用した各領域の教科書だけでなく周辺の参考文献も検索すること。

研究方法論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学修者は、医療における研究の意義と研究方法について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

川俣：理学療法士として病院勤務経験、大学教員として研究指導経験

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、医療における研究の意義
2	研究の展開のしかた
3	文献検索の方法
4	和文検索の実際
5	英文検索の実際
6	疫学と研究デザインの考え方
7	量的研究と質的研究
8	観察研究と介入研究
9	研究におけるバイアスとは？
10	バイアスの制御法
11	和文抄録
12	英文抄録
13	統計学の基礎知識（正規分布、信頼区間等）
14	各種検定法
15	EBMとは？

【履修上の注意事項】

事前にテキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること（120分）。
演習問題は2回以上解いてください。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて、学習到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

「標準理学療法学 理学療法研究法最新版」（シリーズ監修 奈良勲、医学書院）

【参考文献】

「はじめての研究法—コ・メディカルの研究法入門」（千住秀明、神陵文庫）

運動器理学療法学

担当教員 加藤 浩、二宮 省悟、山本 良平

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、リハビリテーション医学Ⅰにおいて学んだ代表的な運動器疾患の疾患特性、障害構造特性の理解を基にそれに対する理学療法アプローチの理論・技術について、患者モデルを用いたグループ学習を中心に学習する。肩関節・股関節・膝関節・足関節疾患の病態を理解し、当該疾患の原因・障害像・予後・医学的治療について理解を深めることを目的とする。さらに、理学療法の評価・治療プログラムを立案できることを目標とする。

【授業の展開計画】

ポイント

- 1) 運動器疾患を対象疾患とする。
- 2) 上記疾患について、原因・障害像・予後・医学的治療について理解を深める。
- 3) 理学療法の評価・治療について学ぶ。
- 4) 本科目は運動器理学療法学Ⅰと連動して学修する。

加藤・二宮・山本：理学療法士として病院勤務経験

1. 股関節疾患（変形性股関節症）①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 加藤
2. 股関節疾患（変形性股関節症）②：病態像・障害像・予後（発表） 加藤
3. 股関節疾患（大腿骨頸部骨折）①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 加藤
4. 股関節疾患（大腿骨頸部骨折）②：病態像・障害像・予後（発表） 加藤
5. 股関節疾患（まとめ） 加藤
6. 肩インピンジメント症候群①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 二宮
7. 肩インピンジメント症候群②：病態像・障害像・予後（発表） 二宮
8. 足関節靭帯損傷①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 二宮
9. 足関節靭帯損傷②：病態像・障害像・予後（発表） 二宮
10. まとめ（振り返り） 二宮
11. 膝関節疾患（ACL損傷）①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 山本
12. 膝関節疾患（ACL損傷）②：病態像・障害像・予後（発表） 山本
13. 膝関節疾患（変形性膝関節症）①：患者モデル提示，病態像・障害像・予後（グループワーク） 山本
14. 膝関節疾患（変形性膝関節症）②：病態像・障害像・予後（発表） 山本
15. 膝関節疾患（まとめ） 山本

【履修上の注意事項】

本科目は理学療法学の中でも必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

各疾患終了後にレポート提出を義務付ける。レポート（40%）、期末試験（60%）で評価する。

【テキスト】

細田多穂・柳沢健編集：理学療法ハンドブック1～4，協同医書（運動器理学療法学Ⅰでも使用）

【参考文献】

理学療法評価学等，関連する授業科目で使用する教科書

運動器理学療法学演習 I

担当教員 加藤 浩、二宮 省悟、山本 良平

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、リハビリテーション医学 I において学んだ代表的な運動器疾患の疾患特性、障害構造特性の理解を基にそれに対する理学療法アプローチの理論・技術について、患者モデルを用いたグループ学習を中心に学習する。肩関節・股関節・膝関節・足関節疾患の病態を理解し、当該疾患の原因・障害像・予後・医学的治療について理解を深めることを目的とする。さらに、理学療法の評価・治療プログラムを立案できることを目標とする。

【授業の展開計画】

ポイント

- 1) 運動器疾患を対象疾患とする。
- 2) 上記疾患について、原因・障害像・予後・医学的治療について理解を深める。
- 3) 理学療法の評価・治療について学ぶ。
- 4) 本科目は運動器理学療法学と連動して学修する。

加藤・二宮・山本：理学療法士として病院勤務経験

1. 股関節疾患（変形性股関節症）①：評価・理学療法（グループワーク） 加藤
2. 股関節疾患（変形性股関節症）②：評価・理学療法（発表） 加藤
3. 股関節疾患（大腿骨頸部骨折）①：評価・理学療法（グループワーク） 加藤
4. 股関節疾患（大腿骨頸部骨折）②：評価・理学療法（発表） 加藤
5. 股関節疾患（まとめ） 加藤
6. 肩インピンジメント症候群①：評価・理学療法（グループワーク） 二宮
7. 肩インピンジメント症候群②：評価・理学療法（発表） 二宮
8. 足関節靭帯損傷①：評価・理学療法（グループワーク） 二宮
9. 足関節靭帯損傷②：評価・理学療法（発表） 二宮
10. まとめ（振り返り） 二宮
11. 膝関節疾患（ACL損傷）①：評価・理学療法（グループワーク） 山本
12. 膝関節疾患（ACL損傷）②：評価・理学療法（発表） 山本
13. 膝関節疾患（変形性膝関節症）①：評価・理学療法（グループワーク） 山本
14. 膝関節疾患（変形性膝関節症）②：評価・理学療法（発表） 山本
15. 膝関節疾患（まとめ） 山本

【履修上の注意事項】

本科目は理学療法学の中でも必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

各疾患終了後にレポート提出を義務付ける。レポート（40%）、期末試験（60%）で評価する。

【テキスト】

細田多穂・柳沢健編集：理学療法ハンドブック1～4、協同医書（運動器理学療法学でも使用）

【参考文献】

理学療法評価学等、関連する授業科目で使用する教科書

運動器理学療法学演習 II

担当教員 加藤 浩、二宮 省悟、山本 良平

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、運動器理学療法学、および運動器理学療法学演習 I で学んだ理学療法アプローチの理論と技術（理学療法評価、運動療法、ADL訓練・指導の各技術）についての基本的スキルを高めて、臨床現場で実践できるようになる。

【授業の展開計画】

加藤・二宮・山本：理学療法士として病院勤務経験

1. オリエンテーション 運動器股関節障害に対する問診・関節機能評価 加藤
2. 運動器股関節障害に対する筋機能評価 加藤
3. 運動器股関節障害に対する痛みの評価 加藤
4. 運動器股関節障害に対する運動療法 加藤
5. 運動器股関節障害に対するADL訓練 加藤
6. 運動器肩甲骨・肩関節障害、足部障害に対する理学療法（総論） 二宮
7. 運動器肩甲骨・肩関節障害に対する理学療法評価 二宮
8. 運動器肩甲骨・肩関節障害に対する治療（運動療法・ADL訓練） 二宮
9. 運動器足部障害に対する理学療法評価 二宮
10. 運動器足部障害に対する治療（運動療法・ADL訓練） 二宮
11. 運動器膝関節障害に対する理学療法評価 山本
12. 運動器膝関節障害に対する理学療法評価 山本
13. 運動器膝関節障害に対する運動療法 山本
14. 運動器膝関節障害に対する運動療法 山本
15. 運動器膝関節障害に対するADL訓練 山本

【履修上の注意事項】

2学期からの臨床実習を視野に入れた、知識面、技術面、そして情意面（態度面）にわたる調和のとれた学習が求められ十分な予習、復習が必要である。特に専門家として理学療法を支える適性或熱意、理学療法士に恥じない言動や態度を身につけることが求められる。

【評価方法】

筆記試験（100%）で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

運動器理学療法学特講**担当教員** 加藤 浩、岡田 裕隆、山本 良平**配当年次** 4年**開講時期** 第2学期**単位区分** 選択**授業形態** 講義**単位数** 1**準備事項****備考****【授業のねらい】**

理学療法士として求められる運動器理学療法分野における専門知識および技術について、これまで学んできた知識・技術を再確認し、整理・蓄積することことで、臨床ベースに即した論理的思考能力の獲得を目標とする。

【授業の展開計画】

加藤・岡田・山本：理学療法士として病院勤務経験

- 1 バイオメカニクス 加藤
- 2 整形外科学(上肢) 山本
- 3 整形外科学(下肢) 加藤
- 4 整形外科学(体幹) 山本
- 5 整形外科学(その他) 山本
- 6 解剖・運動学(上肢) 岡田
- 7 解剖・運動学(下肢) 岡田
- 8 解剖・運動学(歩行) 岡田

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。そのため学生自身の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

学内模試・学外模試の結果を基に評価する。

【テキスト】

各領域でこれまで使用したテキストおよび配布資料を整理し、持参すること
その他は適宜連絡する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

神経理学療法学

担当教員 濱田 輝一、大浦 佳子、山本 良平

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 脳卒中の一般的な患者像を、PTの立場から、自分の言葉で説明できる。
2. 脳卒中に対する理学療法評価を、PTの立場から、自分の言葉で説明でき、実践できる。

【授業の展開計画】

濱田 輝一：理学療法士として病院勤務経験。
大浦 佳子：理学療法士として病院勤務経験。
山本 良平：理学療法士として病院勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・脳卒中の基礎知識 (山本)
2	脳画像の種類 (山本)
3	脳の機能解剖 (山本)
4	脳画像の読影 (山本)
5	脳卒中における運動障害の評価 (山本)
6	高次脳機能障害の評価－机上の検査 (山本)
7	高次脳機能障害の評価－その他 (山本)
8	脳画像と理学療法評価 (山本)
9	脳卒中における疼痛 (山本)
10	脳卒中の理学療法-急性期- (大浦)
11	脳卒中の理学療法-回復期- (大浦)
12	脳卒中の理学療法-維持期- (大浦)
13	脳卒中の姿勢・動作を評価する為の基本動作学 (濱田)
14	脳卒中の姿勢・動作の評価 (濱田)
15	脳卒中の姿勢・動作学からみた治療 (濱田)

【履修上の注意事項】

計画性を持って学習すること。特に各疾患の基本的知識（疾患学）をもとに授業展開することになるので十分な予習及び復習を行うこと。なお、初回に模擬患者・処方箋を提示。個々・班で事前学習し、授業に臨むこと。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
ただし、課題および学習態度等を20%の範囲で評価に反映させる。

【テキスト】

- 1) 潮見泰藏：ビジュアルレクチャー 神経理学療法学，医歯薬出版
- 2) 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ（改訂第2版），メジカルビュー社

【参考文献】

- 1) 理学療法ハンドブック（改定第4版），協同医書出版
- 2) 脳卒中ことはじめ（第2版）医学書院
- 3) 病気がみえるVol17（第1版），メディックメディア

神経理学療法学演習 I

担当教員 濱田 輝一、大浦 佳子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

神経に起因する代表的な疾患とその障害像を理解し、それに対する理学療法アプローチの理論、技術について学習する。

1. 神経に起因する疾患について、その原因、障害像、医学的治療、予後について理解し、PTの立場から、自分の言葉で説明できる。
2. 各神経疾患に対する理学療法アプローチについて理解し、PTの立場から、自分の言葉で説明できる。

【授業の展開計画】

濱田 輝一：理学療法士として、病院勤務経験。

大浦 佳子：理学療法士として、病院勤務経験。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 脊髄損傷総論<定義・原因・分類> (大浦)
2	脊髄損傷<症状について> (大浦)
3	脊髄損傷<評価について> (大浦)
4	脊髄損傷<理学療法について> (大浦)
5	オリエンテーション 末梢神経障害総論<定義・原因・分類> (大浦)
6	末梢神経障害総論<評価と理学療法について> (大浦)
7	オリエンテーション PD・SCD・ALS・MS他 総論<定義・原因・分類> (濱田)
8	パーキンソン病 (PD) <症状について> (濱田)
9	パーキンソン病 (PD) <評価と理学療法について> (濱田)
10	脊髄小脳変性症 (SCD) <症状について> (濱田)
11	脊髄小脳変性症 (SCD) <評価と理学療法について> (濱田)
12	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) <症状と評価について> (濱田)
13	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) <理学療法について> (濱田)
14	多発性硬化症 (MS) <症状と評価, 理学療法について> (濱田)
15	重症筋無力症 (MS) <症状と評価, 理学療法について> (濱田)

【履修上の注意事項】

計画性を持って学習すること。特に各疾患の基本的知識（疾患学）をもとに授業展開することになるので十分な予習及び復習を行うこと。

【評価方法】

期末試験を100%で評価する。ただし、学習態度およびレポート等を20%の範囲で評価に反映させる。

【テキスト】

- 1) 細田多穂, 他: 理学療法ハンドブック 改訂第4版, 協同医書
- 2) 山永裕明・野尻晋一: 図説パーキンソン病の理解とリハビリテーション, 三輪書店
- 3) 武田功, 他: 脊髄損傷の理学療法 第3版 医歯薬出版

【参考文献】

その都度提示する

神経理学療法学演習Ⅱ

担当教員 濱田 輝一、大浦 佳子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「神経理学療法学」、「神経理学療法学演習Ⅰ」で学んだ理学療法の理論と技術についてチュートリアル形式による問題解決型学習で、学生モデルや患者モデルなどを用いて学習する。これにより臨地(臨床)実習で必要な、神経系障害をもつ患者への理学療法の評価から治療までの一連のものを学生自身の言葉で説明と実践ができることを目標とする。

【授業の展開計画】

濱田 輝一：理学療法士として病院勤務経験。 大浦 佳子：理学療法士として病院勤務経験。
教員2名で、代表的疾患を担当し、ABクラスを交互に入替え実施する。領域・疾患は、単元(回)に示す。以下の通り。尚、クラス表記は、この科目でのクラス。学年のクラスではないので、留意のこと。

*代表疾患：脳卒中(CVD)、脊髄損傷(SCI)、パーキンソン病(PD)、脊髄小脳変性症(SCD)、筋委縮性側索硬化症(ALS)、その他神経筋障害(他：GBS、MG、MSなど)

1. ～2. <A・Bクラス> (濱田)

1. 総論①神経系PTの領域

2. 総論②問題点把握・整理と治療

3. ～30. *3～16の14回と17～30の14回で、クラスの入替え。 以下は、14コマの3(17)～16(30)で表記。

<Aクラス> (濱田)

<Bクラス> (大浦)

- 3. (17.) 神経難病・総論
- 4. (18.) PD : 情報の検索・評価項目の列挙
- 5. (19.) PD : 評価技術の施行
- 6. (20.) PD : 治療技術と支援の施行
- 7. (21.) SCD : 情報の検索・評価項目の列挙
- 8. (22.) SCD : 評価と治療技術の施行
- 9. (23.) ALS : 情報の検索・評価項目の列挙
- 10. (24.) ALS : 評価と治療技術の施行
- 11. (25.) 他 : 情報の検索・評価項目の列挙
- 12. (26.) 他 : 評価と治療技術の施行
- 13. (27.) 治療動作①臥位・寝返り・座位・起き上がり
- 14. (28.) 治療動作②立ち上がり・立位・歩行
- 15. (29.) 実技の振り返り③立ち上がり・立位
- 16. (30.) 実技の振り返り④歩行

- SCI : 情報の検索
- SCI : 評価項目の列挙
- SCI : 評価技術の施行
- SCI : 治療技術の施行
- CVD : 情報の検索
- CVD : 評価項目の列挙
- CVD : 評価技術の施行
- CVD : 治療技術の施行
- 高次・D : 評価技術の施行
- 高次・D : 治療技術の施行
- 知識の振り返り(総括：疾患の評価)
- 知識の振り返り(総括：疾患の治療技術)
- 全体の振り返り①評価・問題点抽出
- 全体の振り返り②計画と治療

【履修上の注意事項】

臨床実習を視野に入れた、評価と治療技術の基本の修得が目標である。個々の技術の研鑽と共にグループでの協力が不可欠である。互いに建設的に協力し、計画的に行動すること。併せて十分に予習復習をすること。

【評価方法】

期末試験を100%で評価する。但し、授業への取り組み状況(学習態度およびレポートなど)を20%の範囲で成績に加味する。

【テキスト】

千田 富義、高見 彰淑(編集) 脳卒中(リハ実践テクニック)第3版、メジカルビュー社

【参考文献】

以下の科目で使用したテキスト。「神経理学療法学」、「神経理学療法学演習Ⅰ」、「理学療法評価学演習Ⅰ」、「日常生活活動学」など。

神経理学療法学特講

担当教員 濱田 輝一、大浦 佳子、吉田 勇一

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

理学療法士として求められる基礎理学療法分野における専門知識および技術について、これまで学んできた知識・技術を再確認し、整理・蓄積することを目的とする。また、PTの立場から、自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の展開計画】

濱田輝一：理学療法士として病院勤務経験
大浦佳子：理学療法士として病院勤務経験
吉田勇一：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	脊髄損傷 大浦
2	脊髄損傷 大浦
3	神経難病 (PD, SCD) 濱田
4	神経難病 (MS, MG) 濱田
5	神経生理 (中枢神経) 吉田
6	神経生理 (末梢神経) 吉田
7	脳血管障害 (病態) 大浦
8	脳血管障害 (評価) 大浦
9	脳血管障害 (治療) 大浦
10	運動発達と発達検査 吉田
11	小児疾患 (脳性麻痺、遺伝性疾患、小児整形疾患) 吉田
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

広範囲にわたる知識、技術が要求されるため、4年間の知識の復習と講義ごとの予習が必要である。

【評価方法】

学内模試、学外模試の結果をもとに評価する。

【テキスト】

各領域でこれまで使用したテキストおよび配布資料を整理し、持参すること。
その他は適宜連絡する。

【参考文献】

特に指定しないが、これまで使用した各領域の教科書に留まらず、周辺の文献を検索すること。

内部障害理学療法学

担当教員 川俣 幹雄、大池 貴行、森下 志子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、呼吸循環代謝疾患の病態と障害像を理解する。
当該疾患の評価・医学的治療、理学療法アプローチについて説明できるようになる。

【授業の展開計画】

川俣、大池、森下：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	内部障害のリハビリテーション総論(川俣)
2	内科系疾患の症候学(森下)
3	内科系疾患の評価(肝臓、腎臓、血液機能など)(森下)
4	内科系疾患の評価(代謝性疾患)(森下)
5	内科系疾患の評価(血液疾患)(森下)
6	内科系疾患の評価(感染症の基礎知識)(森下)
7	内科系疾患の評価(感染症各論)(森下)
8	呼吸リハにおけるPTの役割(大池)
9	呼吸理学療法の評価(大池)
10	循環器疾患の病態理解(虚血性心疾患)(川俣)
11	循環器疾患の病態理解(心不全)(川俣)
12	循環器疾患の理学療法評価ADL、QOL(川俣)
13	循環器疾患の運動耐容能評価(川俣)
14	循環器疾患のADL、QOL(川俣)
15	がんの理解(川俣)

【履修上の注意事項】

テキストの該当箇所の予習・復習を徹底すること(120分)。
演習問題は、2回以上解いてください。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

「内部障害理学療法学テキスト 最新版」(山崎裕司、川俣幹雄、丸岡 弘、編)、南江堂
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 最新版」(シリーズ監修 奈良勲他)、医学書院

【参考文献】

「理学療法評価学テキスト」(細田多穂 監修、南江堂)

内部障害理学療法学演習 I

担当教員 川俣 幹雄、大池 貴行

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

呼吸循環代謝系疾患の評価と理学療法について演習形式で学修する。

【授業の展開計画】

川俣、大池：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	内部障害系疾患の疫学（川俣）
2	呼吸器疾患の評価演習総論（大池）
3	呼吸器疾患の運動機能評価演習（大池）
4	呼吸器疾患のADL, QOL評価演習（大池）
5	呼吸器疾患の身体所見評価演習（大池）
6	気道クリアランス演習（大池）
7	呼吸器疾患の運動療法演習（大池）
8	呼吸器疾患模擬症例シミュレーション（大池）
9	循環器疾患の身体所見演習（川俣）
10	循環器疾患の運動機能評価演習（川俣）
11	循環器疾患のADL, QOL評価演習（川俣）
12	心電図演習（川俣）
13	心筋梗塞の理学療法演習（川俣）
14	心不全の理学療法演習（川俣）
15	循環器疾患模擬症例シミュレーション（川俣）

【履修上の注意事項】

授業テーマの関連分野の予習・復習を徹底すること（120分）。
演習問題は2回以上解くこと。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて、学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

その都度、提示する。

内部障害理学療法学演習Ⅱ

担当教員 川俣 幹雄、大池 貴行、森下 志子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、模擬症例検討シミュレーションや演習を通じて、さらに呼吸・循環・内科系疾患全般の評価と理学療法に関する理解を深める。

【授業の展開計画】

川俣、大池、森下：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、内部障害の評価演習総論（川俣、大池、森下）
2	呼吸不全の運動機能評価演習（大池）
3	呼吸器疾患の運動療法演習（大池）
4	呼吸理学療法の実践（大池、川俣）
5	循環器疾患の評価演習（川俣）
6	循環器疾患の運動機能評価演習（川俣）
7	循環器疾患の理学療法演習（川俣）
8	内科系疾患の評価演習（森下）
9	内科系疾患の運動療法演習（森下）
10	内科系疾患の日常生活指導演習（森下、川俣）
11	心電図演習（川俣、大池、森下）
12	身体診察の基本手技（川俣、大池、森下）
13	呼吸理学療法の基本手技（川俣、大池、森下）
14	感染対策演習（川俣、大池、森下）
15	吸引の理論と実際（川俣、大池、森下）

【履修上の注意事項】

テキストの該当分野の予習・復習を徹底すること。
演習問題は2回以上解くこと。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。
小テストを通じて、学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

「呼吸理学療法標準手技」（千住秀明、他監修、医学書院）

【参考文献】

「内部障害理学療法学テキスト最新版」（細田多穂、監修、南江堂）

内部障害理学療法学特講

担当教員 川俣 幹雄、森下 志子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、理学療法士として求められる内部障害理学療法分野における専門知識および技術を再整理し、理解を深める。

【授業の展開計画】

川俣、森下：理学療法士として病院勤務経験

週	授 業 の 内 容
1	循環生理（循環調節）（川俣）
2	循環生理（心電図）（川俣）
3	内科学（症候学）（森下）
4	内科学（感染症）（森下）
5	内科学（免疫疾患）（森下）
6	内科学（血液、造血器疾患）（森下）
7	内科学（腫瘍）（森下）
8	内科学（代謝疾患）（森下）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

テキストの該当分野の予習・復習を徹底すること（120分）。
演習問題は2回以上解くこと。

【評価方法】

模擬試験の成績70%、日常的学習状況30%で評価する。
小テストを通じて、学修到達度、課題等をフィードバックする。

【テキスト】

各領域でこれまで使用したテキストおよび配布資料を整理し、持参すること、その他は適宜連絡する。

【参考文献】

特に指定しない。

スポーツ理学療法学

担当教員 二宮 省悟

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

ヘルスプロモーションからアスレティックリハビリテーションに至るまで、運動・スポーツが身体に及ぼす影響について説明できる。また、運動やスポーツ（競技）における外傷・障害の発生機序を理解することで、健常者からスポーツ選手までの健康増進や健康管理・障害予防に対する指導ができる。

【授業の展開計画】

二宮：理学療法士として病院勤務経験
以下の内容で15回の講義を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・PBL (ACL損傷)
2	スポーツ障害とは
3	スポーツ障害の機能解剖と評価
4	スポーツ障害と理学療法 (上肢・下肢・体幹)
5	四肢と体幹の障害に対する理学療法 1 (上肢)
6	四肢と体幹の障害に対する理学療法 2 (下肢)
7	四肢と体幹の障害に対する理学療法 3 (体幹)
8	スポーツマッサージ法 (知識の習得)
9	スポーツマッサージ法 (技術の実施)
10	テーピング法 (概論)
11	スポーツ障害とコンディショニング 1 (上肢・下肢)
12	スポーツ障害とコンディショニング 2 (体幹)
13	運動と栄養・水分補給
14	障害者スポーツ・レクリエーション
15	体力とヘルスプロモーション (健康増進)

【履修上の注意事項】

理学療法の観点からスポーツを考える必要がある。運動生理などの既有知識が必要になるため、各講義前の予習を行うこと。また講義後は、習った知識を定着させるため、復習を必ず行うこと。実習服やTシャツ、短パンなど運動しやすいものを指定する場合がある。事前にアナウンスする。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。計60%以上の評価を得た場合にのみ履修認定を行う。さらに授業への取り組み状況を成績に加味する（授業への取り組みが不十分な場合には評点より減点する）。

【テキスト】

スポーツ理学療法学 (改訂第2版) 監修 陶山 哲夫 メジカルビュー社

【参考文献】

新版 スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド 臨床スポーツ医学編集委員会：編
理学療法mook スポーツ傷害の理学療法 第2版 福井勉 小柳磨毅、三輪書店

スポーツ理学療法学演習

担当教員 二宮 省悟

配当年次 再履修者（4年）

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

整形外科学、スポーツ理学療法学で学んだことを踏まえ、学修者は理学療法士の立場から運動・スポーツ場面で必要となる基本的な評価技術、治療・指導技術について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

二宮：理学療法士として病院勤務経験、地域スポーツチームのメディカルサポーター経験
以下の通り、15回の演習を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・スポーツ現場での理学療法
2	救急処置の実際（競技中の対応）
3	コンディショニング（スポーツ分野での現状）
4	トレーニング理論・実践（概論）
5	トレーニング理論・実践（各種目に分けた理論と実践）
6	スポーツにおける評価と治療（上肢・下肢）
7	スポーツにおける評価と治療（体幹）
8	スポーツにおける身体動作・運動の分析（上肢・下肢）
9	スポーツにおける身体動作・運動の分析（体幹）
10	テーピング法の実際（基礎編）
11	テーピング法の実際（応用編）
12	コンディショニング（実践編）
13	PBL&SP（模擬患者：肩疾患）
14	PBL&SP（模擬患者：膝関節疾患）
15	PBL&SP（模擬患者：足関節疾患）

【履修上の注意事項】

リハビリテーションの観点からスポーツを考える必要がある。運動生理などの既有知識が必要になるため、講義前の予習を行い、また講義後は、復習を必ず行うこと。
服装については、実習服やTシャツ、短パンなど運動しやすいものが必要となる。その場合は、事前にアナウンスする。

【評価方法】

講義中の意見や質問を重視する。また、全員にレポートを課する。講義態度20%、レポート80%とする。また、課題レポートについて口頭にてコメントし、フィードバックを行う。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

スポーツ理学療法学（改訂第2版） 監修 陶山 哲夫 メジカルビュー社
（スポーツ理学療法学と同様）

老人理学療法学

担当教員 森下 志子、中野 聡太、山本 良平

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

身体の高齢に伴う変化を理解し、高齢者に発生しやすい疾患・障害を考慮した健康支援ができる。
高齢化社会における地域医療の現状を理解し、チーム医療の一員として医療支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

中野：理学療法士として病院勤務経験あり
山本：理学療法士として病院勤務経験あり
森下：理学療法士・介護支援専門員として病院等勤務経験あり

週	授 業 の 内 容
1	高齢者のリハビリテーション（総論） 担当；森下
2	認知症（1） 担当；中野
3	認知症（2） 担当；中野
4	排尿障害 担当；中野
5	高齢者の転倒転落 担当；山本
6	転倒に関する評価 担当；山本
7	転倒予防 担当；山本
8	廃用症候群 担当；森下
9	リスク管理（1） 担当；森下
10	リスク管理（2） 担当；森下
11	高齢者の精神機能特性 担当；森下
12	在宅におけるリハビリテーション 担当；森下
13	リハビリテーションの実際（GW①：基礎知識の確認） 担当；森下・山本
14	リハビリテーションの実際（GW②：評価計画の作成） 担当；森下・山本
15	リハビリテーションの実際（GW③：問題点の抽出・治療計画作成） 担当；森下・山本

【履修上の注意事項】

講義前に必ず教科書の該当箇所を読んでくること。

【評価方法】

小テスト、期末試験、グループワーク活動状況、レポート（グループで1部）などから総合的に評価する。

【テキスト】

高齢者リハビリテーション実践マニュアル 宮越浩一 編、メジカルビュー社

【参考文献】

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 医学書院
そのほか、その都度指示します。

小児理学療法学

担当教員 吉田 勇一

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ねらい：小児理学療法の対象となる疾患を理解する。脳性麻痺、遺伝性疾患、小児整形外科疾患とそれぞれの理学療法について学ぶ。

到達目標：脳性麻痺のことを理解する。特に痙直型両麻痺に関する評価・治療について説明できるようになる。また、遺伝性疾患や整形外科疾患などの臨床像や評価を理解すること。

【授業の展開計画】

- 1、脳性麻痺について考える前に、理学療法士として必要な資質を確認する
- 2、教科書や資料をベースに脳性麻痺について学習する
- 3、臨床で経験する脳性麻痺の臨床像について具体的に解説する
- 4、実際の理学療法について考察する

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。授業内容について。教科書の説明。小児理学療法概論。
2	障害児に共通する特性について。障害児・者の自立について。
3	姿勢、動作の観察方法。
4	正常発達。
5	脳性麻痺の定義と分類。脳性まひの重症度分類（GMFCS）と予後。
6	脳性麻痺の評価1（筋緊張、異常動作、認知）
7	脳性麻痺の評価2（脱臼、発達検査、動作分析、日常生活動作）
8	脳性麻痺の運動障害タイプ別総論1（痙直型両麻痺）
9	脳性麻痺の運動障害タイプ別総論2（片麻痺）
10	脳性麻痺の運動障害タイプ別総論3（アテトーゼ型）
11	重症心身障害児（者）の歴史と施設。
12	脳性麻痺の運動障害タイプ別総論4（重症心身障害児）
13	小児整形外科疾患の理学療法。二分脊椎、ペルテス病、その他。
14	遺伝性疾患の評価と理学療法（デュシェンヌ型筋ジストロフィーを中心に）
15	NICUの理学療法。発達障害について。

【履修上の注意事項】

基礎科目となる人間発達学を復習すること。シラバスに沿って授業を実施するので、前回の授業の続きを予習すること。予習の際には、教科書や授業時に配布した資料を使用すること。復習の際には、必ず学習ノートを作成すること。学習ノートが課題レポートになるので、いつでも提出できるように準備を整えておくこと。学習ノートの詳しい説明は、オリエンテーションで解説する。

【評価方法】

試験50%、課題レポート30%、予習・復習による自主的学修態度20%

【テキスト】

上杉雅之（監修）、イラストでわかる小児理学療法、医歯薬出版株式会社。

【参考文献】

上杉雅之（監訳）；乳幼児の運動発達検査—AIMSアルバータ乳幼児運動発達検査法、医歯薬出版。

小児理学療法学演習

担当教員 吉田 勇一

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ねらい：小児理学療法に必要な評価方法を習得すること。また治療技術に関する基礎を学ぶ。
到達目標：正常な姿勢・動作、また異常な姿勢・動作の評価ができるようになること。

【授業の展開計画】

吉田：理学療法士として病院勤務経験

- 1、課題としてレポートを提出
- 2、各自のレポートに関してグループ内またはグループ間で討議する
- 3、レポートに関する解説
- 4、レポートを基に実技練習

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、進め方、グループ討議、レポートについて。
2	問診に関するロールプレイ、実際の臨床実習場面を想定して。
3	リスク児の評価に関するグループワーク
4	リスク児の統合と解釈、理学療法の実際
5	脳性麻痺（痙直型両麻痺）の評価に関するグループワーク
6	脳性麻痺（痙直型両麻痺）の統合と解釈、理学療法の実際
7	脳性麻痺（痙直型片麻痺）の評価に関するグループワーク
8	脳性麻痺（痙直型片麻痺）の統合と解釈、理学療法の実際
9	筋ジストロフィー症の評価に関するグループワーク
10	筋ジストロフィー症の統合と解釈、理学療法の実際
11	二分脊椎の評価に関するグループワーク
12	二分脊椎の統合と解釈、理学療法の実際
13	重症心身障害児（者）の評価に関するグループワーク
14	重症心身障害児（者）の統合と解釈、理学療法の実際
15	訪問リハビリテーションの実際

【履修上の注意事項】

演習の基礎科目となる人間発達学、小児理学療法学の復習をしておくこと。レポート課題を中心に演習を実施していくので、レポートを必ず提出して積極的にグループ討議すること。授業中に予習課題を提示するので、グループ討議して予習をすること。授業中の実技指導や授業終了時のまとめを基に、各回の復習を確実に実施して、実習で必要になる実践的技能を養うこと。

【評価方法】

ペーパー試験30%、レポート40%、学習態度30%などを評価する（特にグループ討議の際の態度を重要視する）

【テキスト】

上杉雅之（監修）；イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。

【参考文献】

上杉雅之（監訳）；乳幼児の運動発達検査—AIMSアルバータ乳幼児運動発達検査法，医歯薬出版。
上杉雅之（監修）；イラストでわかる小児理学療法。医歯薬出版。

臨床実習 I

担当教員 大池、肥後、加藤、川俣、濱田、二宮、大浦、森下、岡田、吉田、中野、山本、角園

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は本学で学んだ知識、技術を実際の臨床場面で患者（対象者）に対し適応できるようになる。特に臨床実習 I では、

- 1) 医療面接、カルテ等からの情報収集
 - 2) 検査・測定を体験し、障害評価の流れを理解する
- を主な目標とする（検査実習が主体となる）。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

1) 事前指導（3年次実習前）

臨床実習の目的、意義、心得等、実習に必要な項目について事前にオリエンテーションを行う。また、実習施設への手続き等の実際的な指導を行う。

臨床実習 I に臨む準備（取り組み）が十分であるか否かを判断するために学力・実技試験および面接を必要に応じて実施する。

<注意>

事前指導を受けなかった者は履修許可を取り消す。

また、事前指導を受けた者においても、参加状況あるいは取り組みが不十分で、臨床実習 I の履修に問題が生じると予想される場合は、学科会議の審議を経て学科長が履修の許可を取り消すことがある。

2) 臨床実習 I（3年次2学期 3週間）

実習施設の指導者（SV）のもとで実習を行う。

3) 事後指導（臨床実習 I 終了後）

実習に関する成果と反省および今後の課題等について相互共有を行い、実習経験の充実、深化を図る。また、必要に応じてレポート作成、自己評価、ケース発表、討論会等を行う。

4) 事前準備に十分な学修時間を費やすこと。

【履修上の注意事項】

事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては指導者（SV）の指導に従うこと。特に、指示されていないことは勝手に実施しないこと。リスク管理を十分に行い事故・怪我等が発生しないよう細心・最善の注意を払うこと。学内で勉強した既有知識が必要になるため、予習を必ず行うこと。また実習後は、習った知識を定着させるため、デイリーノートなどを活用し、復習を必ず行うこと。

【評価方法】

実習施設による評価（60%）、実習記録・レポートなどの提出物、事前事後指導における参加および理解度（40%）で評価する。

なお、事前事後指導、実習において無断欠席は認められない。また、欠席が出席すべき日数を超えた場合には、評価を受ける資格を失うので注意すること。

事前・事後指導において随時、知識・技術並びにレポートなど提出物のフィードバックを行う。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

特に指定しない

臨床実習Ⅱ

担当教員 大池、肥後、加藤、川俣、濱田、二宮、大浦、森下、岡田、吉田、中野、山本、角園

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者は、本学において学んだ知識・技術を実際の臨床場面で患者に対し適応し、理学療法の実践ができる。特にこの実習では臨床実習Ⅰで学んだ経験をもとに、障害像が複雑でなく比較的理解容易な患者に対し、臨床実習指導者の指導のもと、1) 評価、問題点の抽出、2) 目標設定、3) プログラム作成、を行い、理学療法の一連の流れを経験することを主な目標とする（評価実習を主とする）。ただし学生の習熟度によっては、4) 理学療法実践を経験し、基本的な理学療法の実施が出来るまでを目標とする場合もある。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

1) 事前指導（3年次臨床実習Ⅱ実習前）

臨床実習の目的、意義、心得等、実習に必要となる項目について事前にオリエンテーションを行う。

また、実習施設への手続き等の実際的な指導を行う。

臨床実習Ⅱに臨む準備（取り組み）が十分であるか否かを判断するために学力・実技試験および面接を必要に応じて実施する。

<注意>

事前指導を受けなかった者は履修許可を取り消す。

また、事前指導を受けた者においても、参加状況あるいは取り組みが不十分で、臨床実習Ⅱの履修に問題が生じると予想される場合は、学科会議の審議を経て学科長が履修の許可を取り消すことがある。

2) 臨床実習（3年次2学期 8週間）

実習施設の指導者（SV）のもとで実習を行う。

3) 実習地訪問指導

担当教員が実習地に赴き、学生および指導者から実習の進行状況や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。

4) 事後指導（臨床実習Ⅱ終了後）

実習に関する成果と反省および今後の課題等について相互共有を行い、実習経験の充実・深化を図る。

また、レポート作成、自己評価、ケース発表、討論会 等を行う。

【履修上の注意事項】

事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては指導者（SV）の指導に従うこと。特に、指示されていないことは勝手に実施しないこと。リスク管理を十分に行い事故・怪我等が発生しないよう細心・最善の注意を払うこと。学内で勉強した既有知識が必要になるため、予習を必ず行うこと。また実習後は、習った知識を定着させるため、デイリーノートなどを活用し、復習を必ず行うこと。

特に事前準備に十分な学修時間を充てること。

【評価方法】

実習施設による評価(60%)、実習記録・レポートなどの提出物、事前事後指導における参加および理解度(40%)で評価する。特に事後指導（必要に応じて面接を含む）において実習の成果が認められているか否かを中心に評価する。なお、事前事後指導、実習において無断欠席は認められない。また、欠席が出席すべき日数を超えた場合には、評価を受ける資格を失うので注意すること。事前・事後指導において随時、知識・技術並びにレポートなど提出物のフィードバックを行う。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

特に指定しない

臨床実習Ⅲ

担当教員 大池、肥後、加藤、川俣、濱田、二宮、大浦、森下、岡田、吉田、中野、山本、角園

配当年次 4年

開講時期 1・2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

本学において学んだ知識・技術を実際の臨床場面で患者に対し適応し、理学療法の実践を学ぶ。特にこの実習では臨床実習Ⅰおよび臨床実習Ⅱで学んだ経験をもとに、障害像が複雑でなく比較的理解容易な患者に対し、臨床実習指導者に指導のもと、基本的な理学療法プロセスが実践できることを目標とする。

【授業の展開計画】

*当科目担当教員 全員が理学療法士として病院勤務経験

- 1) 事前指導（4年次臨床実習Ⅲ実習前）
臨床実習の目的、意義、心得等、実習に必要となる項目について事前にオリエンテーションを行う。
また、実習施設への手続き等の実際的な指導を行う。
臨床実習Ⅲに臨む準備（取り組み）が十分であるか否かを判断するために学力・実技試験および面接を必要に応じて実施する。
<注意>
事前指導を受けなかった者は履修許可を取り消す。
また、事前指導を受けた者においても、参加状況あるいは取り組みが不十分で、臨床実習Ⅲの履修に問題が生じると予想される場合は、学科会議の審議を経て学科長が履修の許可を取り消すことがある。
- 2) 臨床実習（4年次1学期 8週間）
実習施設の指導者（SV）のもとで実習を行う。
- 3) 実習地訪問指導
担当教員が実習地へ赴き、学生および指導者から実習の進行具合や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。
- 4) 事後指導（臨床実習Ⅲ終了後）
実習に関する成果と反省および今後の課題等について相互共有を行い、実習経験の充実・深化を図る。
また、レポート作成、自己評価、ケース発表、討論会 等を行う。
- 5) 最終学力確認（全臨床実習終了後）
学内・学外のすべての履修が終了する状況において、臨床に赴くに相応しい学力を兼ね備えているかは重要な要素である。よって最終学力評価を実施する。

【履修上の注意事項】

事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては指導者（SV）の指導に従うこと。特に、指示されていないことは勝手に実施しないこと。リスク管理を十分に行い事故・怪我等が発生しないよう細心・最善の注意を払うこと。

【評価方法】

実習施設による評価（60%）、実習記録・レポート等の提出物、事前事後指導における参加および理解度（40%）で評価し、60%以上の評価を得た学生について最終学力確認を実施する。最終学力確認において基準に達した学生に対し最終的に単位認定を行う。なお、事前事後指導、実習において無断欠席は認められない。また、欠席が出席すべき日数を超えた場合には、評価を受ける資格を失うので注意すること。事前・事後指導において随時、知識・技術並びにレポートなど提出物のフィードバックを行う。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

特に指定しない

卒業研究論文

担当教員 大池 貴行

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

共同研究者との連携にて円滑に学術活動できるよう、卒業論文に必要な①研究計画を立案，②データ収集・処理，③研究成果の発表（プレゼンテーション），④研究論文の作成、それぞれの各過程の意義・手順を学ぶ。本科目を通して、学修者は①～④の研究プロセスを実践できるようになる。

【授業の展開計画】

担当者：大池

- *医療機関にて理学療法士として呼吸・循環障害を有する患者の呼吸循環系理学療法に携わる経験あり
- *呼吸・循環系理学療法に関する学術活動を行い、呼吸リハビリテーションを専門とする

1. 研究概要（研究の必要性、研究テーマ、研究プロセス）
- 2～3. 研究テーマの検討
- 4～5. 先行研究の調査1（日本語論文の抄読）
6. 先行研究の調査2（英語論文の抄読）
7. 研究計画1（スケジュール、リソースの検討）
8. 研究計画2（対象、方法、仮説の検討）
9. 研究計画3（研究計画書作成）
- 10～11. パイロットスタディ1～2
12. 研究計画4（研究デザイン修正の検討）
- 13～17. 実験1～5
18. データ解析1（グラフ化、統計）
19. データ解析2（仮説との検証）
20. 論文作成1（序論、方法、結果）
21. 論文作成2（考察、結語）
22. 論文作成3（要旨、考察、結語）
- 23～25. 研究発表 プレゼンテーション1～3
26. 論文作成5（校正）
27. 論文作成6（校正）
28. 卒業研究発表
29. 論文作成7（校正）
30. 論文作成8（最終校正）

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、リハビリテーション学科の卒業研究論文執筆要綱および規定に従い作成すること。また決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。事前学習として、呼吸循環系の解剖および運動生理学、統計学を理解しておくこと。また、復習を徹底すること。

【評価方法】

卒業研究論文60%、学科プレゼンテーション40%で評価する。ただし、ゼミへの取り組み（課題や文献抄読など）を20%の範囲で成績に反映させる（評点より20%の範囲で減点する）。なお、プレゼンテーション、論文作成ではディスカッションを通して、助言等のコメントをする。

【テキスト】

その都度提示する。

【参考文献】

その都度提示する。

卒業研究論文

担当教員 吉田 勇一

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として、自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

実習Ⅱの症例を基礎にした症例研究方法について指導するので、実習Ⅲで症例研究できるように予習しておくこと。また、ゼミ指導時に提示する課題も確実に予習しておくこと。症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること、仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。ゼミや症例検討会で学んだことを確実に復習して卒業論文を執筆し、決められた手続きを経て期日内に教務課へ提出すること。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時適宜指示する。

【参考文献】

必要時適宜指示する。

卒業研究論文

担当教員 中野 聡太

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として、自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

担当教員は理学療法士として病院勤務の経験がある。

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること、仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文は、決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時適宜指示する。

【参考文献】

必要時適宜指示する。

卒業研究論文

担当教員 角園 恵

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として、自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること、仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文は、決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時適宜指示する。

【参考文献】

必要時適宜指示する。

卒業研究論文

担当教員 山本 良平

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文の作成を通じて、情報収集能力や測定データに対する考え方を養う。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文の作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言するとともに、他の発表者の意見に対して建設的な議論が出来るよう臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文については、決められたフォーマットや提出期限を厳守しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時に適宜指示する。

【参考文献】

必要時に適宜指示する。

卒業研究論文

担当教員 濱田 輝一

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文に必要な①研究計画を立案、②データ収集・処理や必要な情報の収集・整理統合、③研究成果の発表（プレゼンテーション）、④研究論文の作成を行う。この研究による成果報告を通して、卒後の疑問解決ができる方略を学ぶ。

【授業の展開計画】

濱田輝一：理学療法士として病院勤務経験。

授業計画はゼミ生の確定後に詳細な指導計画を決定する。ここでは大まかなタイムスケジュールを提示する。
<1学期>

1) 4月～5月（臨床実習Ⅲ開始前まで）

- ①研究計画の立案、興味あるテーマに関する文献収集とゼミでのプレゼンテーション
- ②研究テーマの設定と実施に必要な関連論文の収集および抄読会（含、論文構成の確認）
- ③研究内容（テーマ）の再確認と決定（含、変更）

2) 5月～9月（臨床実習Ⅲ終了頃まで）

- ①データ収集の為の準備 例：計測機器などの精度・信頼性の確認や症例の情報集の準備
- ②データの収集 例：外れ値の確認などや症例の情報収集
- ②研究途中でのプレゼンテーション（中間報告）
- ③必要に応じて研究テーマの変更

<2学期>

1) 9月～10月（学科プレゼンテーション前まで）

- ①データの処理・解析や症例データの整理と統合化
- ②学科プレゼンテーション用抄録、スライド（パワーポイント）の作成
- ③研究論文作成

2) 10月～11月（論文提出締切まで）

- ①卒業研究論文作成
- ②卒業研究論文提出
（卒業研究論文集の提出原稿作成）

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、リハビリテーション学科の卒業研究論文執筆要綱および規定に従い作成すること。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。また決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。

【評価方法】

卒業研究論文60%、学科プレゼンテーション40%で評価する。ただし、ゼミへの課題取組・成果を20%の範囲で成績に反映させる（評点より20%の範囲で減点する）。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

その都度提示する。

【参考文献】

その都度提示する。

卒業研究論文

担当教員 加藤 浩

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究論文作成に必要な、①研究計画立案、②データ収集・処理、③研究成果の発表（プレゼンテーション）

④卒業研究論文作成を行う。そして、一連の研究の流れについて経験することで、科学的根拠に基づいた理学療法の意味について理解できるようになる。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

< 1 学期 >

1) 4月～5月

- ①研究計画の立案
- ②研究実施に必要な論文の収集
- ③研究内容（テーマ）の決定

2) 5月～9月

- ①3次元動作解析装置，EMG機器等の使用方法の練習
- ②予備実験，データの収集
- ③研究テーマの修正等

< 2 学期 >

1) 9月～10月

- ①データの処理、解析
- ②学科プレゼンテーション用抄録、パワーポイント、ポスター作成
- ③研究論文作成

2) 11月

- ①卒業研究論文作成
- ②卒業研究論文提出

3) 12月

- ①卒業研究論文集の作成

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、リハビリテーション学科の卒業研究論文執筆要綱および規定に従い作成すること。

また決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。また、研究の実施にあたり、卒業研究テーマに対する事前の文献収集等の準備、予習、復習を行うこと。

【評価方法】

卒業研究論文60%、学科プレゼンテーション40%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

その都度、指示する。

【参考文献】

その都度、紹介する。

卒業研究論文

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者は、卒業研究論文作成に必要な、①研究計画立案、②データ収集・処理、③研究成果の発表（プレゼンテーション）、④卒業研究論文作成を行い、医療における研究の意義と方法について学ぶ。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

授業計画はゼミ生の確定後に詳細な指導計画を決定する。ここでは大まかなタイムスケジュールを提示する。

< 1 学期 >

- 1) 4月～5月（臨床実習Ⅲ開始前まで）
 - ①研究計画の立案、ゼミでのプレゼンテーション
 - ②研究実施に必要な論文の収集および抄読会
 - ③研究内容（テーマ）の決定
- 2) 5月～9月（臨床実習Ⅲ終了頃まで）
 - ①データの収集
 - ②研究途中でのプレゼンテーション
 - ③必要に応じて研究テーマの変更

< 2 学期 >

- 1) 9月～11月（学科プレゼンテーション前まで）
 - ①データの処理、解析
 - ②学科プレゼンテーション用抄録、パワーポイント、ポスター作成
 - ③研究論文作成
- 2) 11月（論文提出締切りまで）
 - ①卒業研究論文作成
 - ②卒業研究論文提出

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、指導教員が指定する執筆要綱および規定に従い作成すること。

また決められた手続きを経て、期日内に提出しなければならない。

指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。

研究テーマの設定においては、事前に必ず文献のレビューを行ってください。

ゼミでの学修以外に研究計画、文献検索、論文執筆等に十分な時間を充てること。

【評価方法】

卒業研究論文60%、学科プレゼンテーション40%で評価する。

研究計画の修正等については、適宜フィードバックする。

【テキスト】

その都度、提示する。

【参考文献】

その都度、提示する。

卒業研究論文

担当教員 肥後 成美

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として、自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること。仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文は、決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取組30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時に適宜提示する。

【参考文献】

必要時に適宜提示する。

卒業研究論文

担当教員 二宮 省悟

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文に必要な①研究計画を立案（先行研究論文の調査を含む）、②データ収集・処理、③研究成果の発表（プレゼンテーション）、④研究論文の作成ができる。

【授業の展開計画】

二宮：理学療法分野にて学会発表、論文執筆経験

授業計画はゼミ生の確定後に詳細な指導計画を決定する。ここでは大まかな予定を提示する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究論文の概説	16	データ収集（本実験：B班）
2	研究計画の立案（スケジュール作成）	17	データ収集（本実験：C班）
3	テーマ決め	18	データ収集（本実験：D班）
4	研究目的の作成	19	データ集計（プレ実験&本実験）
5	先行研究の調査（直接的な関連のある論文）	20	データ分析（プレ実験&本実験）
6	先行研究の調査（間接的な関連のある論文）	21	データ分析（処理・結果）
7	研究方法について（対象・場所・測定方法）	22	データ分析（表・図の作成）
8	研究方法について（機材・統計処理法）	23	考察・結論の作成
9	データ収集（プレ実験：A班）	24	本研究の今後の課題について
10	データ収集（プレ実験：B班）	25	卒業論文作成（序論・方法・結果）
11	データ収集（プレ実験：C班）	26	卒業論文作成（考察・結論）
12	データ収集（プレ実験：E班）	27	プレゼンテーション（原稿・スライド作成）
13	データ集計	28	プレゼンテーション（予行演習）
14	データ分析・方法論の修正	29	プレゼンテーション（研究成果の発表）
15	データ収集（本実験：A班）	30	卒業研究論文振り返り・まとめ

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、リハビリテーション学科の卒業研究論文執筆要綱及び規定に従い作成し、決められた手続きを経て期日内に教務課へ提出しなければならない。指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。各講義前には、論文やテキストを読み予習を行うこと。また研究活動や実験後には、まとめを行うと共に、復習を必ず行うこと。

【評価方法】

卒業研究論文作成100%で評価する。ただし、ゼミへの取り組みを40%の範囲で成績に反映させる（評点より40%の範囲で減点する）。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

担当教員が必要時適宜指示する

【参考文献】

担当教員が必要時適宜指示する

卒業研究論文

担当教員 大浦 佳子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文に必要な①研究計画を立案，②データ収集・処理や必要な情報の収集・整理統合，③研究成果の発表（プレゼンテーション），④研究論文の作成を行う。

【授業の展開計画】

担当教員は理学療法士として病院勤務経験。

授業計画はゼミ生の確定後に詳細な指導計画を決定する。ここでは大まかなタイムスケジュールを提示する。

< 1 学期 >

- 1) 4月～5月（臨床実習Ⅲ開始前まで）
 - ①研究計画の立案，ゼミでのプレゼンテーション
 - ②研究実施に必要な論文の収集および抄読会
 - ③研究内容（テーマ）の決定
- 2) 5月～9月（臨床実習Ⅲ終了頃まで）
 - ①データの収集
 - ②研究途中でのプレゼンテーション
 - ③必要に応じて研究テーマの変更

< 2 学期 >

- 1) 9月～10月（学科プレゼンテーション前まで）
 - ①データの処理，解析
 - ②学科プレゼンテーション用抄録，パワーポイント作成
 - ③研究論文作成
- 2) 10月（論文提出締切りまで）
 - ①卒業研究論文作成
 - ②卒業研究論文提出
- 3) 11月～
 - ①卒業研究論文集の作成

【履修上の注意事項】

卒業研究論文は、リハビリテーション学科の卒業研究論文執筆要綱および規定に従い作成すること。

また決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

指定された期日内に卒業研究論文の提出がない場合は、評価を受ける資格を失う（再履修となる）ので注意すること。研究テーマの設定においては、事前に必ず文献のレビューを行ってください。また、復習を徹底すること。

【評価方法】

卒業研究論文60%、学科プレゼンテーション40%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

その都度提示する。

【参考文献】

その都度提示する。

卒業研究論文

担当教員 森下 志子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

1. 基礎知識の確認
2. 講義
3. 実技の確認
4. 症例検討会
5. 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること。仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文は、決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時適宜指示する。

【参考文献】

必要時適宜指示する。

卒業研究論文

担当教員 岡田 裕隆

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業論文を完成させることを通じて、将来理学療法士として、自ら考え行動する能力を養う。

【授業の展開計画】

担当教員：理学療法士として病院勤務経験

- 1) 基礎知識の確認
- 2) 講義
- 3) 実技の確認
- 4) 症例検討会
- 5) 卒業論文（症例報告）作成

【履修上の注意事項】

症例検討会では、自分の意見や疑問を積極的に発言すること、仲間の意見をじっくり傾聴する姿勢で臨むこと。卒業研究論文における関連分野の予習・復習を徹底すること。卒業論文は、決められた手続きを経て、期日内に教務課へ提出しなければならない。

【評価方法】

科目への態度・取り組み30%、卒業論文50%、症例発表20%で評価する。なお課題レポートに対し、ディスカッションを通して助言やフィードバックを行う。

【テキスト】

必要時適宜指示する。

【参考文献】

必要時適宜指示する。

がんのリハビリテーション学

担当教員 中野 聡太

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

2010年に診療報酬にて「がん患者リハビリテーション料」が設けられた。本講義では、がん治療やがんの進行によってADLやQOLの低下をきたす者に対して、医療チームの一員として理学療法を実践できるようになるための基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

担当教員は理学療法士として病院勤務の経験がある。

週	授 業 の 内 容
1	精神心理的問題とコミュニケーションスキル
2	がんのリハビリテーションの必要性
3	がんの特徴
4	がんの分類、がん治療の原則
5	血液検査
6	有害事象
7	生命予後
8	嚥下障害の基礎
9	嚥下と発生の障害
10	疼痛管理
11	骨転移
12	模擬症例検討（準備）
13	模擬症例検討（発表）
14	症例検討（原発性肺がん）
15	症例検討（急性リンパ性白血病）

【履修上の注意事項】

がん医療は日進月歩であり、情報量が非常に多い分野である。講義と併せて十分な予習、復習を行うこと。

【評価方法】

期末試験を100%として評価する。

【テキスト】

『がん患者のリハビリテーション リスク管理とゴール設定』 宮越 浩一 編 （メジカルビュー社）

【参考文献】

適宜、紹介する。